

(案)

## 第2期

# 苫小牧市スポーツ推進計画

～まちが輝く、人が輝く、スポーツの力で～

令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)まで



全国  
初!  
1966.11.12  
スポーツ  
都市宣言

令和8年3月

苫小牧市

# ス ポ ー ツ 都 市 宣 言

(昭和 41 年 11 月 12 日宣言)

わたくしたち苦小牧市民はスポーツを愛し、スポーツを通じて  
健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築くため  
次の目標をかかげて、ここに「スポーツ都市」を宣言します。

- 1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう。
- 2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう。
- 3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会  
をつくりましょう。
- 4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎま  
しょう。

## はじめに

本市は、昭和 41 年に全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行い、スポーツを通じて、健康でたくましい心と体を育み、豊かで活力あるまちづくりを目指してまいりました。

平成 28 年には「苦小牧市スポーツ推進計画」を策定し、基本理念である「活気みなぎるスポーツ都市とまこまい」の実現に向け、様々なスポーツ振興施策を推進してきたところです。

この間、令和 5 年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス・テニス競技大会、第 78 回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会や第 25 回オリンピック冬季競技大会 2025 女子アイスホッケー最終予選など、全国・世界規模の大会が本市で開催され、多くの市民がスポーツの魅力やその持つ力を改めて実感する機会となりました。

そして本年、スポーツ都市宣言から 60 周年という大きな節目を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、さらにスポーツの力をまちづくりに生かしていく決意を新たにしています。

市民の皆様一人ひとりが、それぞれの形でスポーツに親しみ、健康で生き生きと暮らせるまちの実現に向けて、本計画の推進に御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びにあたり、本計画の策定に御尽力いただいた苦小牧市スポーツ推進審議会の委員の皆様をはじめ、関係団体や関係者の皆様、またアンケート調査に御協力いただき、貴重な御意見をお寄せいただいた市民の皆様に深く感謝を申し上げます。

令和 8 年 3 月

苦小牧市長 金澤俊



## 〔 目 次 〕

### « 第 1 章 » 計画策定にあたって ······ P5

- 1 計画の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間
- 4 本計画におけるスポーツの定義

### « 第 2 章 » スポーツを取り巻く環境と課題 ······ P6~17

- 1 スポーツに関する国や北海道の動向
- 2 社会情勢等の変化
- 3 本市における現状（第1期計画の総括）と課題
  - (1) 8つの方針とこれまでの取組状況
  - (2) 本市の課題

### « 第 3 章 » 計画の基本的な考え方 ······ P18~21

- 1 基本的な考え方
- 2 基本理念
- 3 計画の方針と施策
- 4 成果指標と目標数値

### « 第 4 章 » 目標達成に向けた主な事業展開 ······ P22~26

- 1 各方針に対する具体的な施策

### « 資 料 編 » ······ P27~61

- 1 第1期計画の施策評価
- 2 苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査概要
- 3 障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査概要
- 4 苫小牧市での合宿に関する調査概要
- 5 スポーツ指導者の実態調査概要
- 6 スポーツ施策に関する調査概要
- 7 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（抜粋）
- 8 苫小牧市スポーツ推進審議会条例
- 9 苫小牧市スポーツ推進審議会委員名簿
- 10 苫小牧市スポーツ推進審議会等審議経過
- 11 用語解説

## « 第 1 章 » 計画策定にあたって

### 1 計画の趣旨

本市では、国が策定した「第1次スポーツ基本計画」の考え方を踏まえ、より効率的・効果的にスポーツの推進を図るため、平成28年9月に「苫小牧市スポーツ推進計画」を策定し、その後、令和3年度に中間見直しを行い、基本理念として掲げた「活気みなぎるスポーツ都市とまこまい」の実現に向け、様々なスポーツ振興の施策を進めてきました。

また、この間、人口減少や少子高齢化の進行、デジタル化の進展、ライフスタイルの多様化などのほか、世界的にまん延した新型コロナウイルス感染症は、日常生活に制限をもたらし、スポーツ分野においても競技大会、イベントなどの延期や中止を余儀なくされるなど、社会状況やスポーツを取り巻く環境は大きく変化しました。

一方で、東京2020、北京2022、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会における本市ゆかりのアスリートの活躍は、多くの市民に勇気や希望、感動をもたらし、スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツの価値と、そして「スポーツの力」を再認識する機会となりました。

いつの時代にあっても、「スポーツの力」には計り知れないものがあります。身体的効果、精神的効果、社会的効果、教育的効果、そして経済的効果など、スポーツは単に身体を動かすだけでなく、個人の生活の質を向上させ、社会全体にも良い影響を与える重要な活動です。

こうした背景を踏まえ、前計画の取組結果や、スポーツを取り巻く現状と課題の整理により、「スポーツの力」を最大限に活用し、市民が一体となって本市のスポーツ推進に取り組むことができるよう「第2期苫小牧市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という）を策定します。

### 2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定するものであり、国の「スポーツ基本計画」及び北海道の「北海道スポーツ推進計画」を踏まえ、上位計画である「苫小牧市総合計画」との整合性を図りながら、個別計画として本市のスポーツ推進をより具体化するものです。

### 3 計画の期間

本計画の計画期間は、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とします。

### 4 本計画におけるスポーツの定義

本計画における「スポーツ」とは、ルールに基づいて勝敗や記録を競う運動競技のみならず、体力向上、健康維持のための軽い運動（ウォーキングやラジオ体操等）やレクリエーション（キャンプ活動その他の野外活動を含む）なども含むものとしています。

## « 第 2 章 » スポーツを取り巻く環境と課題

### 1 スポーツに関する国や北海道の動向

#### (1) 国の動向

国では、令和 4 年（2022 年）3 月に、「第 3 期スポーツ基本計画」を策定しました。

この計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な参画を通じて、より多くの人がスポーツの楽しさや感動を分かち合うような「スポーツ文化」の成熟に向けて、必要な方針や具体的な施策等が示されました。

第 2 期計画において掲げた 4 つの中長期的な基本方針「①スポーツで『人生』が変わる」、「②スポーツで『社会』を変える」、「③スポーツで『世界』とつながる」、「④スポーツで『未来』を創る」は、今後も踏襲した上で、社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境に対し、持続可能な社会の実現を目指していくため「する」、「みる」、「ささえる」という視点に加え、新たな 3 つの視点「つくる/はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」が必要とされました。

#### (2) 北海道の動向

北海道では、令和 4 年（2022 年）3 月に、地域の特性を生かし、スポーツを通じて健康で豊かな生活の形成と魅力ある人づくりや地域づくりを推進するとともに、将来にわたる持続可能な社会の実現に寄与することを目的として、「北海道スポーツ推進条例」を新たに施行しました。

また、スポーツを取り巻く環境や社会状況が大きく変動していく中にあって、「スポーツの持つ力」を最大限活用し、「北海道の潜在力」を発揮しながら、本道のスポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和 5 年度（2023 年度）から 5 年間を計画期間とする「第 3 期北海道スポーツ推進計画」を策定しました。この計画のもと、官民連携組織である「北海道スポーツみらい会議」と連携するなど、オール北海道でスポーツの推進を図っています。



出典：第 3 期スポーツ基本計画

出典：第 3 期北海道スポーツ推進計画

## 2 社会情勢等の変化

---

### (1) 人口減少・少子高齢化の進行

本市の総人口は、平成 25 年（2013 年）をピークに減少に転じており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると令和 22 年（2040 年）には 2.4 万人、令和 42 年（2060 年）には 5.4 万人の減少が見込まれます。

年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15 歳～64 歳）が減少する一方で、老人人口（65 歳以上）は増加傾向で推移しており、今後、少子高齢化の流れは一層顕著になっていくものと考えられます。

のことからも、高齢者が生涯にわたり行うことができるスポーツの普及・推進により、健康寿命を延ばすための取組が求められます。

### (2) 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症は、社会全体に大きな影響を及ぼし、スポーツの分野においても、大会やイベントの中止などスポーツに親しむ機会が減少したほか、体力の低下や運動不足になる要因となりました。

また、スポーツ関連企業や団体等においては、観客収入の減少やスポンサーシップの減少など経済的な打撃を受けました。

一方で、制限された日々の中で、からだを動かすことの重要性や、スポーツが持つ心の支えとしての役割がより一層強調され、スポーツが私たちの生活にとってどれほど重要であるかを再認識させる契機にもなりました。

### (3) デジタル化やオンライン活動の拡大

昨今のテクノロジーの急速な進展により、スポーツの楽しみ方や参加の仕方が変化しています。

オンラインでのフィットネスによって自宅でのトレーニングが可能となるほか、デジタルコンテンツの普及により、世界中のどこからでも試合観戦ができるようになりました。

また、プロスポーツチームではソーシャルメディアを通じてファンと直接的にコミュニケーションを取ることや、リアルタイムで交流できる場を提供するなど、デジタル技術の拡大はスポーツの楽しみ方や参加方法などに大きな影響を与えています。

### (4) 環境意識の高まりと持続可能なスポーツ活動

近年では、世界的に環境問題への意識が高まり、持続可能な社会づくりが重視される中、スポーツイベントや施設運営においても、環境に配慮した取組が求められています。

スポーツ施設でのエネルギー効率の改善や資源の循環利用などの対策により、環境への負荷を減らすとともに、スポーツ活動を通じて環境問題への理解を深め、スポーツが次世代に対して持続可能な社会を築くための重要な手段となることが期待されています。

## (5) 多様性とインクルージョンの推進

性別、年齢、障がいの有無、人種や文化の違いを尊重する社会が求められる中で、全ての人々が参加できるスポーツ環境の整備が重要となっています。特に障がい者スポーツの普及やジェンダー平等を意識したプログラムの展開が重要となっています。

これらの考え方は、スポーツ活動のアクセス向上や社会的なつながりの形成、そしてコミュニティの多様性を尊重するために欠かせない要素です。

### 3 本市における現状（第1期計画の総括）と課題

第1期計画（令和3年改定後）では、“活気みなぎる「スポーツ都市」とまこまい～スポーツを愛し、市民が活気あふれるまちへ～を基本理念として、8つの方針のもと 16 の施策の実現に取り組みました。

#### (1) 8つの方針とこれまでの取組状況

方針1 ライフステージに応じ誰でも気軽にスポーツができる機会を提供します

**施策① 誰でも気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります**

**施策② 子どもがスポーツに親しむ機会をひろげます**

**施策③ 高齢者がスポーツを楽しむ機会をひろげます**

#### 【これまでの取組状況】

スポーツ実施率向上とスポーツ人口増加には、誰もが気軽にスポーツに触れるができる環境が必要であることから、健康ウォーキング事業やとまこまいスポーツフェスティバルなどの市民参加型イベント、学校体育館の市民開放などを実施し、身近なスポーツ環境を整備しました。

また、子どもにとってスポーツは「健康な身体づくり」、「体力向上」、「豊かな心の育成」に効果があることから、子ども向けスポーツ教室などのイベントや、少年団チームなどを紹介する番組「Come!Come!スポーツキッズ」を制作し、団員募集などのスポーツ人口の増加や地域スポーツ振興につなげる取組を実施しました。

高齢者にはスポーツ施設無料利用券を交付し、健康増進を支援し、健康寿命延伸を目指して、スポーツと福祉分野の連携を強化しました。

## 方針2 スポーツへの理解を深め地域でスポーツに参加できる機会を創出します

**施策④ 身近な地域でスポーツの交流ができる機会をつくります**

**施策⑤ 地域文化として氷上スポーツへの参加を推進し地元を愛する心を育みます**

**施策⑥ 多様な媒体による情報発信を行いスポーツへの参加をサポートします**

### 【これまでの取組状況】

身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる機会を提供するため、とまこまいマラソン大会や八地区スポーツフェスティバルを実施し、地域内での交流と地域コミュニティ再生に取り組んだほか、総合型地域スポーツクラブの育成やスポーツ少年団の活動を促進し、協調性の向上や人間関係の構築等の機会の提供に努めました。

また、「スケートのまち」、「氷都とまこまい」として築いてきた独自のスケート文化を次世代の子ども達へとつないでいくため、氷上スポーツ育成事業や幼稚園でのスケート事業に対する助成を行い、子どもたちのスケート競技への関心を高める機会を提供しました。

スポーツ施設の利用情報やイベント情報などの発信については、従来の広報誌やホームページに加え、InstagramなどのSNSのほか、ラジオ等のコミュニティ放送も活用しました。

## 方針3 スポーツ大会や合宿の誘致を行いスポーツを見る機会をつくります

**施策⑦ スポーツ大会の誘致を行いトップレベルのプレーを見る機会をつくります**

**施策⑧ スポーツ合宿の誘致を行いトップレベルの練習方法を学ぶ機会をつくります**

**施策⑨ トップスポーツ観戦の機会をつくりスポーツが持つ楽しさや感動を共有します**

### 【これまでの取組状況】

苫小牧市 MICE 誘致推進協議会や地元競技団体と連携し、スポーツ大会や合宿誘致活動を展開しました。

特にスポーツ大会においては、ミラノ・コルティナオリンピック女子アイスホッケー最終予選などの国際大会や、国民スポーツ大会冬季大会（国スポ）、日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）、全国高校総体（インターハイ）などの全国規模の大会を開催し、地域経済の活性化はもとより、本市のスポーツ施設の魅力向上、観光、文化及び産業などの本市の魅力を市内外に情報発信する絶好の機会となりました。

また、トップスポーツ観戦の機会としては、女子プロゴルフ小学生見学ツアーや、プロ野球北海道日本ハムファイターズが実施した市民応援デーのほか、様々な大会において大会主催者と連携した取組を行い、スポーツに関心を持ち、スポーツを楽しむ環境づくりを展開しました。

#### 方針4 競技スポーツを支え世界で活躍する選手を地域で育み応援します

**施策⑩ 競技スポーツの活動を支援し世界で活躍する選手を育てます**

**施策⑪ アスリートを育み応援することでまちの誇りと一体感を醸成します**

**施策⑫ トップアスリートとふれあう機会をつくりスポーツ振興につなげます**

##### 【これまでの取組状況】

国際大会や全国・全道大会などのハイレベルな大会に参加することは、今後の競技力の向上にとって大変貴重な機会であることから、より多くの市民が上位の大会を目指し競技力の向上につなげていくため、国際大会奨励金の給付や全国・全道大会遠征費の補助を行いました。

また、2020 東京オリンピック・パラリンピック出場選手団の合宿受入れや採火式、本市ゆかりのアスリートを全市民が応援する機運を高めるための応援メッセージの発信等、市民のスポーツへの興味関心を高め、将来のスポーツ人口増加に向けた取組を実施しました。

トップアスリートとふれあう機会としては、スポーツマスターによるスポーツ教室の実施や、東京ヤクルトスワローズによる野球教室、北海道日本ハムファイターズ選手トークショーを開催するなど、市民との交流事業を行いました。

#### 方針5 スポーツを支える人の拡大を推進します

**施策⑬ スポーツボランティアの活躍を推進しスポーツを支える輪をひろげます**

##### 【これまでの取組状況】

スポーツ活動を支えるスポーツ指導者やスポーツボランティアの人材登録を促進し、登録指導者の情報を地域からの要望に応じ紹介する、人材バンク事業を行いました。

地域のスポーツ振興を担うスポーツ推進委員については、専門的知識や技能向上に向けた研修会等の開催や活動支援の取組を実施しました。

## 方針 6 民間事業者等と協力して誰もがスポーツに参加できる環境を整備します

### 施策⑭ 民間スポーツ事業者や各種教育機関と協力し誰もがスポーツに参加できる機会を提供します

#### 【取組状況】

本市のスポーツ施設に指定管理者制度を導入し、民間事業者の能力やノウハウを幅広く活用した自主事業の展開を行うなど、市民サービスの向上や市民がスポーツに参加できる機会の提供に努めました。

## 方針 7 それぞれの適正に応じたスポーツ活動を推進します

### 施策⑮ 障がいのある方がスポーツを楽しむ機会をつくります

#### 【取組状況】

障がいのある・なしに関わらず誰もが参加できるパラスポーツ教室を開催し、パラスポーツに親しむとともに、障がいへの理解を深め、福祉の担い手を増やす機会としての取組を進めました。

また、様々なパラスポーツ競技を体験できるパラスポーツ体験会を開催し、パラスポーツの周知とともに、競技人口の拡大や障がい者への理解促進を図りました。

## 方針 8 誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備を進めます

### 施策⑯ 誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備を進めます

#### 【これまでの取組状況】

本市のスポーツ施設は半数以上が建築から 30 年以上が経過し、改修等をはじめ設備の更新等も急務な状況にあることを踏まえ、令和 3 年 3 月に苫小牧市スポーツ施設整備計画を策定し、長期的な視点での施設整備を行ってきました。

令和 5 年度全国高校総体（インターハイ）開催に向けた緑ヶ丘公園庭球場のコート改修、矢代スポーツセンターの人工芝化や防球ネットの設置、令和 6 年 1 月の国民スポーツ大会開催に向けたハイランドスポーツセンター計測システムや nepia アイスアリーナ音響設備更新等を実施しました。

## (2) 本市の課題

第1期計画（平成28年度から令和7年度まで）では、以下の7つの成果指標と目標数値を掲げ、各種施策に取り組みました。

しかしながら、全ての項目において目標を達成することができず、前回の計画改訂時に課題とした事項について、十分な改善が見られない現状が明らかとなりました。

(単位：%)

成果指標と目標数値	R3	R7
市民の <u>70%</u> が、週1回以上運動を行うことを目指します	58	<u>59</u>
児童・生徒の <u>75%</u> が、運動やスポーツが好きになることを目指します	63	<u>60</u>
市民の <u>40%</u> が、市や地域等のスポーツ行事に参加することを目指します	25	<u>17</u>
本市が全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行ったまちであることを、 <u>80%</u> の市民に知ってもらうことを目指します	38	<u>31</u>
市民の <u>50%</u> が、年1回以上スポーツ施設で観戦することを目指します	30	<u>34</u>
市民の <u>20%</u> が、スポーツボランティア活動を行うことを目指します	7	<u>5</u>
障がいのある人の <u>65%</u> が、週1回以上運動を行うことを目指します	51	<u>49</u>

図1 スポーツ実施率

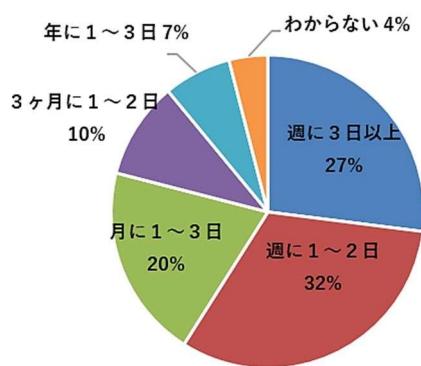


図2 地域スポーツ活動への参加状況

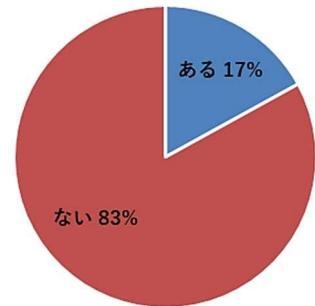


図3 スポーツ観戦率

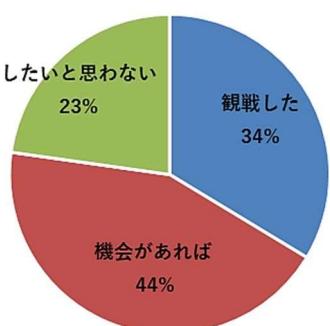
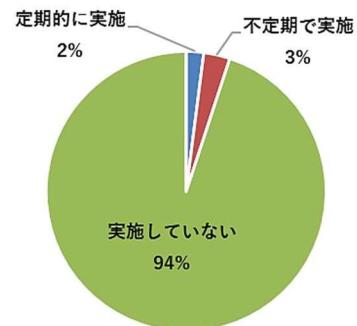


図4 スポーツボランティア実施率



## ア 『市民の運動・スポーツ活動実態調査』から見えてきた課題

運動を行わなかった、あるいはやめた理由として最も多かったのは「仕事・学業等が忙しくて時間がない（65 件）」であり、全体の 43% を占める結果となりました。これは、働き世代や学生など、日常生活における時間的余裕のなさが運動習慣の妨げとなっている現状を示しています。

また、新たにスポーツを始めるにあたり、市民が重視する点としては、令和 3 年度の調査結果と同様に「お金がかかるないこと」や「身近な場所でできること」といった、気軽に取り組むことができる環境が求められています。

本市の特徴である氷上スポーツの現状については、いずれの競技も実施率は前回調査と同様に 1 割以下にとどまっており、きっかけの不足や体調・ケガといった理由が、実施率の低さの要因となっています。一方で、「もっと力を入れるべき」や「独自の文化として守っていくべき」といった意見が大半を占めていることから、今後も競技人口の拡大に向けた取組を進めていく必要があります。

令和 8 年に 60 周年を迎えるスポーツ都市宣言の認知度については、全体で 31% となっており世代別に見ると 30 代以下の認知度は 20% 以下と低いことから、若年層に向けた取組を強化していく必要があります。

図 5 スポーツをやめた理由



図 6 新たにスポーツを始める際に重要なこと



図 7 氷都としてどういくべきか

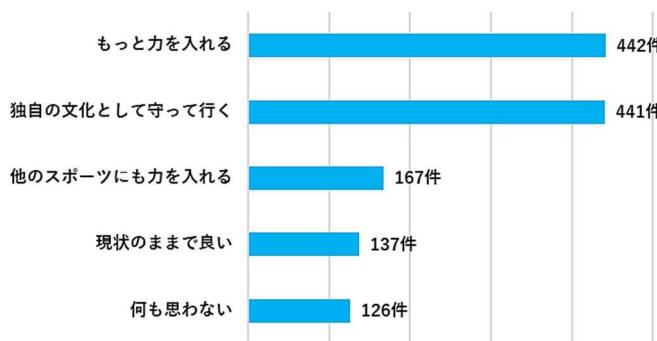
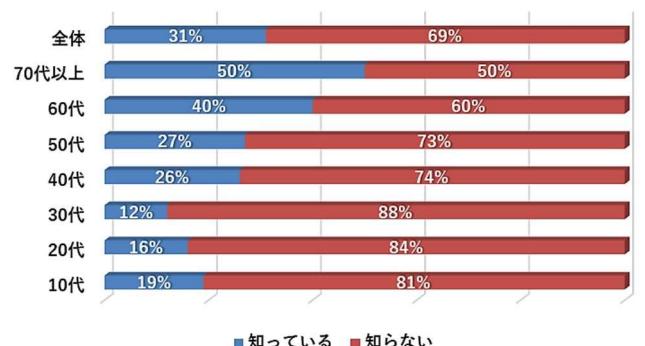


図 8 スポーツ都市宣言の認知度（年代別）



## イ 『障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査』から見えてきた課題

障がいのある方の週1回以上のスポーツ実施率は49%となっており、国の実施率を上回る結果となりました。しかし、前回の調査結果と比較すると実施率は減少しており、引き続き取組が必要であることが伺えます。

障がいのある方がスポーツに取り組む上での課題としては、「一緒に活動するメンバーが少ない」との回答が多く、安心して参加できる交流の場や仲間づくりの機会が、十分に確保されていない現状が浮き彫りとなりました。こうした状況を改善するためには、障がいのある方が気軽に参加できる教室やイベント、地域のつながりづくりを一層推進していくことが求められます。

また、公共施設の「バリアフリー化が進んでいる」と回答した割合が前回調査の34%から44%に向上しており、一定の改善が進んでいることが伺えますが、トイレや駐車場から会場までの移動に不便を感じているとの意見が依然として多く寄せられており、全ての人が安心してスポーツに参加できる環境づくりに向けて、更なる施設整備や利用者目線での環境改善が求められます。

図9 スポーツ実施率

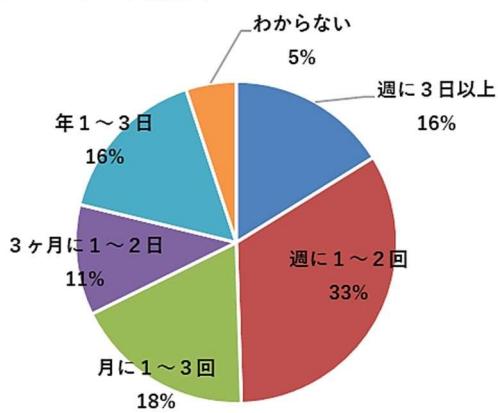


図10 スポーツを行う上での課題



図11 バリアフリー化が進んでいる施設はあるか

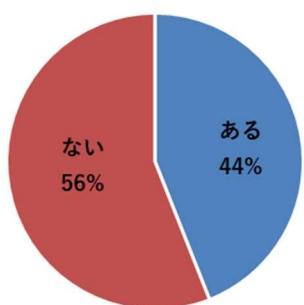
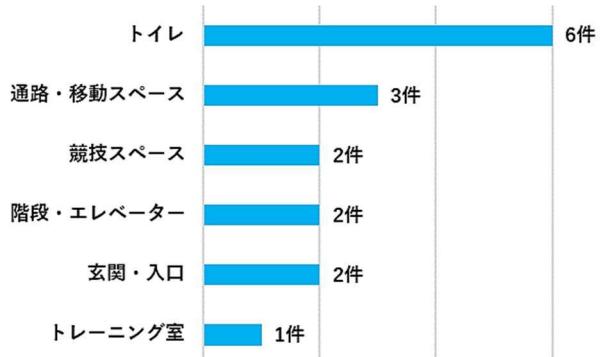


図12 施設で利便性がよくないと感じる所



## ウ 『苫小牧市での合宿に関する調査』から見えてきた課題

本市におけるスポーツ合宿の状況を見ると、種目別では「アイスホッケー」と「バスケットボール」が多く、参加者は「高校生」が中心となっています。このことは、本市に全国的にも知られる当該スポーツ種目の強豪校が存在していることが大きな要因であると考えられます。

また、合宿地として苫小牧が選ばれる理由としては、冷涼な気候と良好な交通アクセスのほか、「合宿助成金制度」が一定の効果を発揮しており、こうした支援施策が合宿誘致において評価されていることが、今回の調査から明らかになりました。

一方で、合宿の実施時期には偏りが見られ、春から夏にかけての合宿開催が多く、冬季には合宿の受入れが少ない状況です。今後は、冬季にも積極的な受入れを促進し、年間を通じて安定的かつバランスの取れた合宿の受入体制を整えることが重要です。

図13 種目

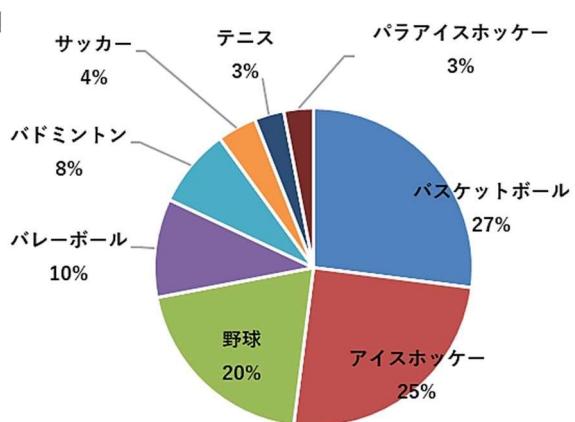


図14 カテゴリ

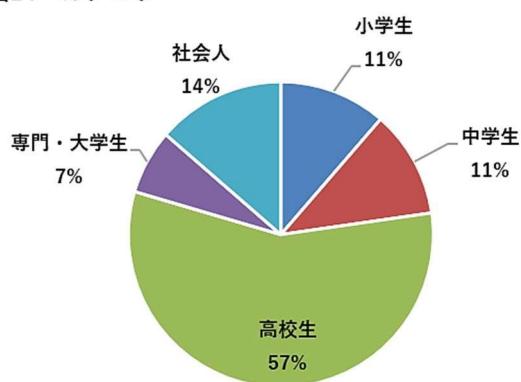
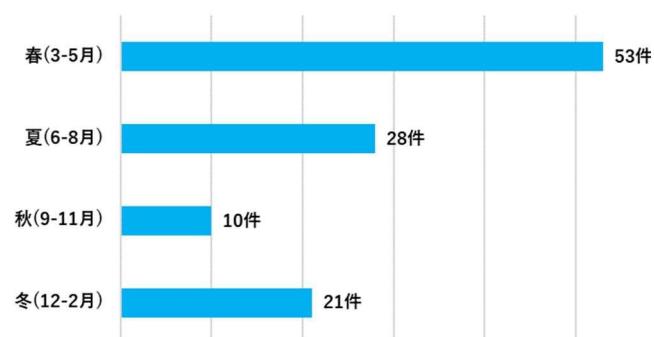


図15 苫小牧を選んだ理由



図16 令和6年度スポーツ合宿受入実績 (団体数)



## エ 『スポーツ指導者の実態調査』から見えてきた課題

スポーツ指導者の現状については、「40代」以上の方が中心となっており、多くが「会社員」として働きながら、限られた時間の中で指導に携わっていることが明らかになりました。地域のスポーツを支える重要な存在である指導者の多くが、仕事や家庭と両立しながら活動している実態が伺えます。

また、指導現場における課題としては、「選手不足」や「指導者のなり手不足」、「活動場所や施設の不足」といった声が多く寄せられており、競技人口の拡大や練習環境の充実が求められている状況です。

さらに、指導者自身が抱える課題としては、「指導に十分な時間が確保できない」「金銭的負担が大きい」といった点が挙げられており、時間的・経済的負担を軽減するための支援策や環境整備を検討し、指導者が安心して長く活動を続けられる体制づくりを進めていくことが重要です。

図17 年代

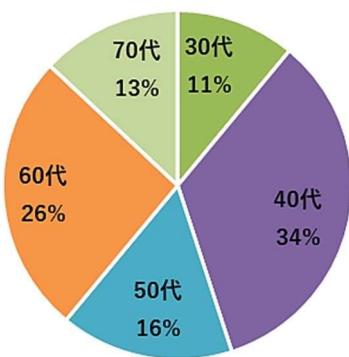


図18 仕事

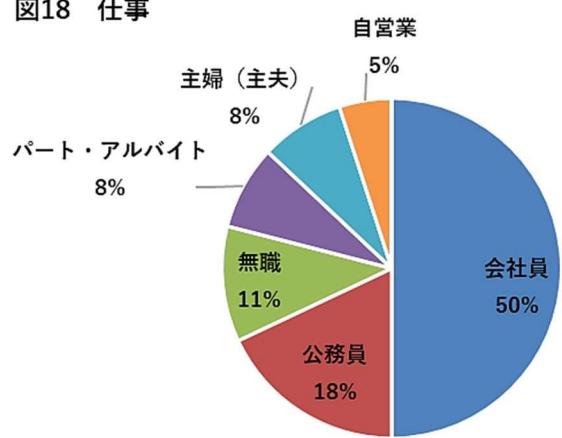


図19 指導を行う際に問題になっていること



図20 指導していく上で、抱えている課題



## オ 『スポーツ施策に関する調査』から見えてきた課題

本市のスポーツ施設を管理している指定管理者に対して実施したアンケート結果によると、本市のスポーツ施策において特に評価が高かった点として「施設利用料が安価であること」が挙げられ、経済的負担を抑えながらスポーツに親しめる環境であることが評価されています。

一方で、『今後注力すべきこと』や『スポーツツーリズムの実現のために必要なこと』といった問い合わせに対しては、「施設の充実」が最も多く挙げられており、体育館をはじめとする既存施設の老朽化や、練習・活動場所の不足が大きな課題として浮き彫りになっています。特に、全国大会や合宿誘致、スポーツツーリズムの推進を目指す上でも、こうした施設面の課題解決は避けて通れない重要な要素といえます。

さらに、市のスポーツ関連情報の発信についても改善が求められており、誰もが必要な情報に簡単にアクセスできるよう、より効果的でわかりやすい情報提供の方法や工夫が今後の課題として挙げられています。これらの課題を一つひとつ改善し、市民が安心してスポーツを楽しめる環境づくりと、まちの魅力向上を進めていくことが求められています。

図21 市のスポーツ分野において優れている点

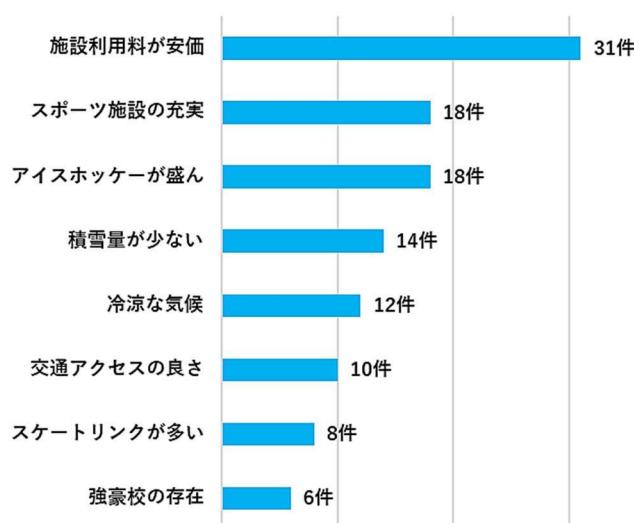


図22 今後注力すべきこと



図23 スポーツツーリズムの実現度

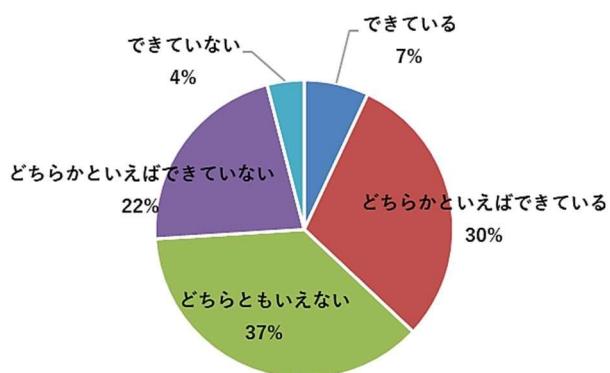
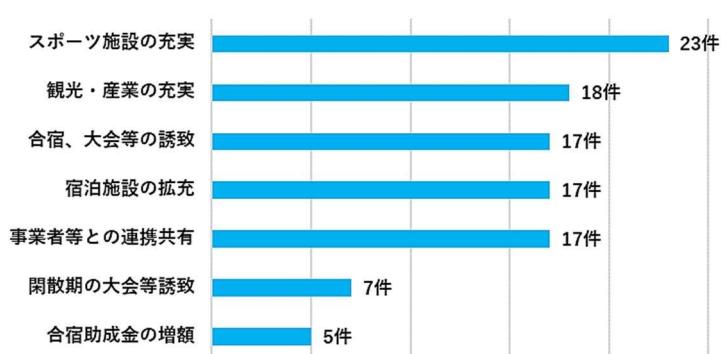


図24 スポーツツーリズム実現（充実）のために必要なこと



## 1 基本的な考え方

第1期計画（平成28年度から令和7年度まで）に引き続き、「スポーツ都市宣言」に示す4つの柱を目標として、各施策を推進していきます。

### ス ポ ー ツ 都 市 宣 言 に 示 す 4 つ の 柱 『 目 標 』

- 1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう。
- 2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう。
- 3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう。
- 4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう。

### 第 2 期 計 画 に お け る 『 基 本 理 念 ( テ ー マ ) 』 の 設 定

### 目 標 と 基 本 理 念 に 基 づ く 『 方 針 』 と 『 施 策 』 の 設 定

### 各 施 策 の 実 施 に よ る 『 目 標 数 値 の 達 成 』

## 2 基本理念

---

### 「まちが輝く、人が輝く、スポーツの力で」 ～ 輝きつなぐ、スポーツ都市とまこまい ～

#### 【由 来】

第1期計画の基本理念を継承し、スポーツによる未来への継承や発展をイメージしました。

##### 1 「まちが輝く」

スポーツは、まちの文化やアイデンティティ<sup>\*</sup>を形成し、観光や地域経済にも良い影響を与えます。スポーツイベントや活動が地域に活力を与え、地域の人々が一つになり、共に楽しむことでまちが明るく活気に満ちた場所となるという想いを込めています。

##### 2 「人が輝く」

スポーツは、体力向上や健康促進だけではなく、チームワークやチャレンジ精神などを育みます。選手として、または応援する側として、スポーツに参加することで心身が成長し、市民一人ひとりが持つポテンシャルを最大限に発揮できるようになるという想いを込めています。

##### 3 「スポーツの力で」

スポーツは、競技の枠を超えて、教育、健康、地域経済のつながり、社会問題解決など幅広い影響力を持っています。

また、スポーツには感動や歓声、共感など、人々を動かす力を持っています。地域でのスポーツ活動を通じて、次世代のリーダーや有望なアスリートが育ち、そして、多くの市民に活気を与えるというような想いを込めています。

#### 【総合的なビジョン】

スポーツが持つ力を通じて、個人の成長と地域社会の活性化を同時に促進し、最終的に「まち」と「人」の双方が輝く未来を目指すというビジョンを描いています。

スポーツの持つ可能性は、個人の心身の成長だけでなく、地域全体を元気にし、コミュニティの絆を深める力を秘めているといえます。

### 3 計画の方針と施策

本計画では、目標の達成に向けて、次のとおり「5つの方針」と「15の具体的な施策」を定め、計画的かつ効果的に取組を進めてまいります。

【第2期計画における目標・方針・施策のイメージ図】

4つの目標	5つの方針	15の施策
1 市民すべてがスポーツを楽しみましょう。	(1) 誰もがスポーツができる機会の創出	① 生涯スポーツ社会を実現する。 ② 地域で健康増進や生きがいのあるスポーツ活動を推進する。 ③ パラスポーツ・軽スポーツを推進する。
2 力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう。	(2) スポーツによるまちづくり	④ 大会や合宿を誘致し、地域経済の活性化を図る。 ⑤ スポーツによるまちの魅力向上を目指す。 ⑥ 交流人口の増加を目指す。
3 次代をになう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう。	(3) アスリートの育成やスポーツをする子どもへの支援	⑦ トップレベルに触れる機会を創出する。 ⑧ 世界で活躍する選手を育成し、ゆかりのある選手を市全体で応援する。 ⑨ 市内でスポーツをする選手への支援を行う。 ⑩ スポーツによる国際交流を増やす。 ⑪ 青少年のスポーツ人口を増やす。 ⑫ スポーツを支える人（ボランティアや指導者）を拡大する。
4 世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう。	(4) 氷上スポーツの推進	⑬ 古くから市民に親しまれ特色ある文化を維持し、競技人口の拡大に努める。 ⑭ 地域資源を活用することによる地元スポーツへの理解や愛着を醸成する。
	(5) スポーツができる場の提供	⑮ 誰もが安全にいつでも利用できる施設を提供する。

#### 4 成果指標と目標数値

本計画では、施策の効果を的確に把握し、進捗状況や課題を明らかにするとともに、全国初の『スポーツ都市宣言』を行ったまちとして、次のとおり「成果指標」と「目標数値」を設定します。

第2期計画内（R8～R12）での「成果指標」と「目標数値」		現在 (R7)	中間 (R10)	最終 目標
全国初のスポーツ都市宣言を行ったまちとして	市民の <u>65%</u> が週1回以上運動を行うことを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、④、⑤、⑦、⑧、⑨、⑪、⑬、⑭、⑮	59	62	70
	児童・生徒の <u>65%</u> が、運動やスポーツが好きになることを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、⑤、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑬、⑭	60	63	75
	市民の <u>25%</u> が、市や地域等のスポーツ行事に参加することを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、⑤、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭	17	22	40
	市民の <u>40%</u> が、年1回以上スポーツ施設で観戦することを目指します。 【関連施策】 ④、⑤、⑥、⑦、⑨、⑩	34	38	50
	市民の <u>10%</u> が、スポーツボランティア活動を行うことを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、④、⑤、⑫	5	7	20
	障がいのある人の <u>55%</u> が、週1回以上運動を行うことを目指します。 【関連施策】 ①、②、③、⑤、⑫、⑮	49	52	65

※ 目標の達成状況は、市民アンケートの実施により把握します。

### 1 各方針に対する具体的な施策

#### 方針 1 誰もがスポーツができる機会の創出

- 施策**
- ① 生涯スポーツ社会を実現する
  - ② 地域で健康増進や生きがいのあるスポーツ活動を推進する
  - ③ パラスポーツ・軽スポーツを推進する

#### 【取組内容】

スポーツ実施率の向上とスポーツ人口の増加を図るために、年齢や体力、経験の有無に関わらず、誰もが気軽に参加できる環境の整備が重要です。市民一人ひとりが無理なく楽しみながら運動に取り組むことができるよう、「とまこまいスポーツフェスティバル」など、楽しさや達成感を感じられる市民参加型イベントを実施し、日常の中にスポーツを取り入れるきっかけを提供することで、市民の健康増進や交流促進を図ります。

また、高齢の方でも気軽に参加できる「健康ウォーキング事業」や「パークゴルフ」など、身近な地域でのスポーツ活動を通じて、健康増進や生きがいづくりにも寄与していきます。

さらに、障がいのある方もスポーツに親しめる社会の実現に向けて、「パラスポーツ教室」や「パラスポーツ体験会」の開催し、スポーツの楽しさや達成感を感じられる機会を提供するとともに、継続的な活動への参加を促していきます。

そして、デジタルトランスフォーメーション（DX）を活用し、健康上の理由や障がい等により外出が困難な人たちをはじめ、場所を問わずにスポーツに参画しやすい環境づくりに努めます。

こうした誰もがスポーツに関わることができる環境づくりを進めることにより、スポーツが生活の一部として定着し、全ての市民が健康で活力ある日常を送ることができるまちづくりを目指します。

#### 【実施する主な事業】

- ・ 各種市民スポーツ祭
- ・ とまこまいマラソン
- ・ とまこまいスポーツフェスティバル
- ・ 健康ウォーキング事業
- ・ スポーツ習慣化促進事業
- ・ 出前講座
- ・ 苫小牧市スポーツ推進委員会活動
- ・ パラスポーツ振興事業（パラスポーツ教室、パラスポーツ体験会）
- ・ 生涯スポーツ推進事業（老人オリンピック、パークゴルフなど）
- ・ 70歳以上の方へのスポーツ施設無料利用券発行



- 施策 ④ 大会や合宿を誘致し、地域経済の活性化を図る**  
**⑤ スポーツによるまちの魅力向上を目指す**  
**⑥ 交流人口の増加を目指す**

**【取組内容】**

本市の特色である夏場の冷涼な気候や豊かな自然環境、交通アクセスの良さなどを最大限に活用するとともに、「全国・全道スポーツ大会開催運営費補助金」や「スポーツ合宿等補助金」などの既存制度を積極的に周知し、競技団体や学校及びスポーツ関係者に対して大会や合宿の誘致に向けた取組を行います。

これにより、各種スポーツ大会や合宿の開催を促進するとともに、プロスポーツの拠点化やプロスポーツ団体と連携した施策を展開し、スポーツを通じた地域経済の活性化につなげる仕組みを構築します。

また、プロスポーツ団体の誘致にあたっては、高水準の競技環境を提供するための施設整備が不可欠ですが、こうした施設を市民が利用できることは市民サービスの向上にも大きく寄与します。

これらの取組を通じて、市民が高い競技レベルに触れる機会を創出し、スポーツへの関心や機運の醸成を図ってまいります。

さらに、「氷都とまこまい体感プログラム」などの取組を通じて、アイスホッケータウンとしての本市の特性や魅力を広く発信し、市外からの訪問者や交流人口の増加につなげていきます。

これらの取組を着実に進めるとともに、昭和41年に全国で初めて『スポーツ都市宣言』を行ったまちとして、今後もその歴史と精神を大切にしながら、スポーツの価値を地域に浸透させ、まちの魅力向上につなげてまいります。



**【実施する主な事業】**

- ・ 全国・全道スポーツ大会開催運営費補助金
- ・ スポーツ合宿等補助金
- ・ 合宿誘致セールス等 (MICE 誘致推進協議会との連携)
- ・ 氷都とまこまい体感プログラム
- ・ はちとまネットワーク (八戸市小学生とのアイスホッケー交流試合)

- 施策 ⑦ トップレベルに触れる機会を創出する**
- ⑧ 世界で活躍する選手を育成し、ゆかりのある選手を市全体で応援する
- ⑨ 市内でスポーツをする選手への支援を行う
- ⑩ スポーツによる国際交流を増やす
- ⑪ 青少年のスポーツ人口を増やす
- ⑫ スポーツを支える人（ボランティアや指導者）を拡大する

### 【取組内容】

本市では、スポーツを通じたまちの魅力向上と競技力の向上を目指し、各種プロスポーツの試合やイベントを積極的に開催することで、市民がトップレベルの選手に直接触れ、競技の魅力や感動を実感できる機会を創出するとともに、地域のスポーツ文化の活性化を図ります。

また、「スポーツ大会遠征費補助金」などの施策により、市内でスポーツに励む選手を支援するとともに、世界で活躍できる選手を市全体で応援する体制づくりを進めます。

さらに、近年の問題として、スポーツの現場における”安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”『スポーツハラスメント』について、スポーツに携わる各競技団体等と連携した取組を実施し、全ての人が健全なスポーツ活動に取組むことができる環境づくりに努めていきます。

また、こうした取組に加えて、苫小牧市スポーツ協会と連携しながら、スポーツ指導を行うための資格取得に対する支援事業を実施し、“スポーツを支える人”を支援してまいります。



### 【実施する主な事業】

- ・ プロスポーツ等の試合開催
- ・ NTC（ナショナルトレーニングセンター）事業
- ・ スポーツ大会遠征費補助金（遠征費補助金、国際大会出場奨励金）
- ・ スポーツマスター事業
- ・ 合宿誘致セールス等（MICE 誘致推進協議会との連携）
- ・ アスリートに対する応援事業（セレモニーの実施、横断幕の掲示など）
- ・ JSPO 資格取得支援事業
- ・ 部活動の地域展開
- ・ スポーツボランティア制度

## 方針4

### 水上スポーツの推進

- 施策 ⑬ 古くから市民に親しまれ特色ある文化を維持し、競技人口の拡大に努める**  
**⑭ 地域資源を活用することによる地元スポーツへの理解や愛着を醸成する**

#### 【取組内容】

『氷都とまこまい』としての伝統を次世代へつなぐため、幼児や小学校低学年を対象としたスケート・アイスホッケー教室や大会の開催、幼稚園のスケート事業への助成などを通じて、スケート文化の普及・振興に取り組みます。

また、『氷上の甲子園』とも呼ばれる「全国高等学校選抜アイスホッケー大会」を開催することで、アイスホッケータウンとしての知名度向上を図るとともに、全国的な競技の振興にも努めます。

さらに、アイスホッケーに加えて、北海道で初めてカーリングが行われた地としての歴史を生かし、カーリングに親しむ機会の創出や関連イベントの開催などにも力を入れ、市民がより身近に水上スポーツを楽しめる環境を整備し、水上スポーツの普及を図ってまいります。

これらの施策を通じて、『氷都とまこまい』のブランド価値を高めるとともに、未来を担う子どもたちや市民が誇りを持つことができるまちづくりを目指していきます。



#### 【実施する主な事業】

- ・ ジュニアアイスホッケーチャレンジカップの開催
- ・ 水上スポーツ育成事業（水上スポーツ体験教室、町内会スケートリンク助成など）
- ・ 全国高等学校選抜アイスホッケー大会（氷上の甲子園）の開催
- ・ プロスポーツチームとの協働事業
- ・ カーリングの活用

**施策 ⑯ 誰もが安全にいつでも利用できる施設を提供する****【取組内容】**

本市のスポーツ施設は、半数以上が建築から30年以上を経過しており、施設の老朽化が深刻な課題となっています。より多くの市民がスポーツに触れる機会を確保するためには、安心して施設利用することができる場を提供することが必要であり、施設の改修・補修や競技用器具の更新など、早急な対応が求められています。

また、全国規模のスポーツ大会の誘致や、スポーツ観光都市の実現においては、その受入環境としてのスポーツ施設の整備は不可欠であるといえます。観客や選手、関係者にとって利便性が高く、魅力的な施設を備えることは、都市のイメージ向上や地域の活性化にも大きく寄与することから、スポーツ施設の整備を計画的に進めてまいります。

あわせて、施設のバリアフリー化をはじめとして、高齢者や障がいのある方、子どもから大人まで、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりを行い、健康づくりや地域交流の場として、多様な世代が安心して利用できる施設づくりを進め、市民の豊かで活力ある生活の基盤を支えてまいります。

**【実施する主な事業】**

- ・市民スポーツ開放事業（学校開放）
- ・指定管理者による自主事業の実施
- ・スポーツ施設の計画的な改修・再整備
- ・スポーツ施設の一体管理
- ・公園や民間スポーツクラブ等との連携

1 第1期計画の施策評価	・・・・・	P28～32
2 苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査概要	・・・・	P33～41
3 障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査概要	・・	P42～45
4 苫小牧市での合宿に関する調査概要	・・・・・	P46～48
5 スポーツ指導者の実態調査概要	・・・・・	P49～52
6 スポーツ施策に関する調査概要	・・・・・	P53～55
7 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（抜粋）		P56～57
8 苫小牧市スポーツ推進審議会条例	・・・・・	P58
9 苫小牧市スポーツ推進審議会委員名簿	・・・・・	P59
10 苫小牧市スポーツ推進審議会等審議経過	・・・・・	P60
11 用語解説	・・・・・	P61

## 1 第1期計画の施策評価

【施策評価】※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内 容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
市民スポーツ祭の開催	卓球、ソフトテニス、スポンジテニス等の各種市民スポーツ祭を開催する。	B	B	B	B	A
健康ウォーキング事業の開催	ウォーキングスタンプラリー・ウォーキングフェスティバルを開催する。	B	B	B	A	A
アールビーズとの協働事業	包括連携協定を締結し、ランニングやウォーキング等を通じた事業を実施する（R3～）。	－	A	A	B	B
スポーツフェスティバルの開催	全市民が体験、楽しむことができるスポーツイベントを実施する（R3～）。	－	D	A	A	A
スポーツ習慣化促進事業	働き世代等を対象に、民間事業者による運動プログラムを実施する（R6～）。	－	－	－	－	A
スポーツ学校開放事業	小・中学校体育館等をスポーツ活動や社会教育のために活用する。	C	A	A	A	A
児童の健全育成	各児童センターで、遊びを通じて運動に親しむ習慣の形成や体力の増進を図る。	A	A	A	A	A
スポーツイベント参加者へのポイントの付与	市のスポーツイベント参加者に対してとまチョップポイントを付与し、スポーツへの参加を促進する。	A	A	A	A	A
スポーツに関する情報発信	子どものための行事案内を公共施設等に配布し、生涯学習の機会充実を図る。	A	A	A	A	A
青少年スポーツ振興事業	少年団等の活動動画をインターネット等で配信し、競技人口の底上げ、地域スポーツの振興を推進する（R5～）。	－	－	－	A	A
苫小牧市老人クラブ連合会への補助	苫小牧市老人クラブ連合会主催の「老人オリンピック」に係る費用の一部を助成する。	D	D	D	D	D
70歳以上の方へのスポーツ施設無料利用券発行	70歳以上の方にスポーツ施設無料利用券を発行し、健康づくりや体力づくり、生きがいづくりを図る。	A	A	A	A	A
保健センターを利用した運動教室・講座	健康づくりに関する教室・講座を開催し、市民の健康増進を図る。	B	B	B	B	A

【施策評価】※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
健康に関するイベントの実施	健康づくりの契機となる事業を開催し、市民に生活習慣改善の意識づけを図る。	A	B	A	A	A
とまこまいマラソン大会の開催	多くの方が参加できるマラソン大会を開催する。	D	B	A	A	A
八地区スポーツフェスティバルの開催	市内を八地区に分け、地域で開催する各種スポーツ行事の運営費を補助する。	B	B	B	B	A
小学生低学年アイスホッケーチャレンジカップ大会	小学校低学年のアイスホッケー大会を開催する。	A	B	A	A	A
氷上スポーツ育成事業	幼児を対象とした氷上スポーツ体験教室の開催や氷上スポーツ行事の経費を助成する。	B	B	B	A	A
町内会スケートリンク経費助成	町内会で設置する公園スケートリンクの経費を補助する。	A	B	A	B	B
スポーツイベントの情報発信	各スポーツ施設でのイベント情報を、広報とまこまいやSNS等で発信する。	B	B	A	A	A
スポーツ団体の情報発信	年に1回サークルガイドを作成し、公共施設や市ホームページ等で情報提供する。	A	B	A	A	A
全国高等学校選抜アイスホッケー大会	インターハイと並ぶ全国大会「氷上の甲子園」を開催する。	D	B	B	A	A
スポーツ大会感染拡大防止対策支援事業助成金	本市で開催される大会の感染対策に係る経費の一部を助成する（～R3）。	C	B	—	—	—
全国・全道大会開催誘致活動	補助金制度により各種スポーツの全国・全道大会の開催を誘致する。	A	B	B	B	A
第95回日本学生氷上競技選手権の開催	大学生として最高峰の大会「インカレ」のスケート競技を開催する（R4）。	—	—	A	—	—

【施策評価】※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

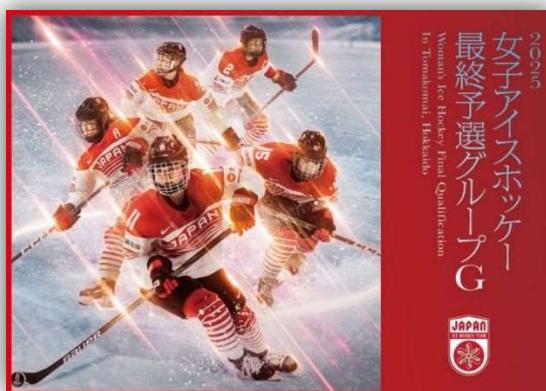
施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
令和5年度全国高等学校総合体育大会の開催	高校生スポーツ最大の祭典である「インターハイ」のソフトテニス競技及びテニス競技大会を開催する（R4準備～R5）。	—	—	A	A	—
第78回国民スポーツ大会（スケート・アイスホッケー）の開催	国民の健康増進と体力の向上、地方スポーツの推進と文化の発展の寄与等を目的とする「国スポ」を開催する。			A	A	—
スポーツ合宿等助成	市外のチーム等が本市の施設を利用して実施する合宿の経費を補助する。	A	A	A	A	A
スポーツ合宿の誘致活動	MICE誘致推進協議会により、市外の団体等に合宿誘致活動を行う。	D	D	D	B	A
アイスホッケー競技N T C事業の推進	ナショナルトレーニングセンター強化拠点指定施設である nepia アイスアリーナのトレーニング環境を整備する。	A	A	A	A	A
プロスポーツの試合開催	世界大会やプロスポーツ等、トップレベルのスポーツ観戦の機会をつくる。	A	B	B	B	A
国際少年アイスホッケー中学生交流会	カナダと本市の中学生が一年毎に訪問し、アイスホッケーを通じて競技力向上と交流を深める（～R5終了）。	D	D	D	D	—
大会遠征費補助金	全道・全国大会に出場する学生の交通費助成や国際大会出場者への奨励金を支給する。	A	A	A	A	A
女性アスリートの健康に関する性教育講座	女性アスリートのパフォーマンス向上を目的とした性教育講座を実施する（R6～）。	—	—	—	—	A
2020東京オリンピック・パラリンピック開催事業	2020東京オリンピック・パラリンピック出場選手団の合宿受入れ、採火式等を実施する（R3）。	—	A	—	—	—
北京オリンピックアイスホッケー女子日本代表の応援事業	2022北京冬季オリンピックに出場するアイスホッケー女子日本代表のパブリックビューイングを実施する（R3）。	—	D	—	—	—
アスリートに対する応援事業	表敬訪問や横断幕掲出など、本市ゆかりのアスリートに対する応援事業を実施する。	A	A	A	A	A

【施策評価】※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
スポーツマスター事業	スポーツ分野で輝かしい功績を残したアスリートに称号を与え、教室を実施する。	A	A	A	B	A
レッドイーグルス北海道との協働事業	包括連携協定を締結し、学校訪問やアイスホッケー教室等の協働事業を実施する。	D	A	A	A	A
Safilva 北海道（※）との協働事業 ※現イエロースターズ	包括連携協定を締結し、バレーボール教室等の協働事業を実施する（R3～R4）。	—	B	B	—	—
青森県八戸市との連携	両市共通のアイスホッケータウンとして、小学生のアイスホッケー交流試合等の協働事業を実施する。	D	D	C	A	A
北海道応援大使プロジェクト	北海道日本ハムファイターズの協力を得て、市民応援デーや選手交流会等を実施する（R4～R6）。	—	—	A	A	A
スポーツ推進委員会活動	スポーツ推進委員が地域スポーツの普及・推進を図るための活動に対して補助を行う。	C	C	B	B	A
スポーツボランティアの募集	スポーツイベントやスポーツ大会等を支えるスポーツボランティアをスポーツ協会で募り、各種スポーツイベントに協力する。	B	B	B	B	B
アスリートフードマイスター養成支援	身体づくりをサポートするアスリートフードマイスターの養成を支援する。	A	A	B	B	A
指定管理者の自主事業の充実	スポーツ振興や施設の利用者数向上を目的とした、指定管理者による自主事業を実施する。	B	B	B	B	B
北洋大学との連携	北洋大学との連携・協力の一環としてスポーツ分野における事業協力を実施する。	D	D	B	A	D

【施策評価】※“A(順調に実施)” “B(概ね順調に実施)” “C(やや遅れて実施)” “D(未実施)”

施策名	内容	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
パラスポーツ教室	障がい者の社会参加促進等を目的にボッチャや車いすバスケットボール等の各種教室を開催する。	C	C	A	B	A
パラスポーツ体験会	パラスポーツの競技人口の拡大や障がいへの理解促進を目的にパラスポーツ体験会を開催する。	D	D	B	B	A
既存スポーツ施設の改修	施設の有効活用や利用者数向上に向けて、老朽化が進んでいる施設の改修・再整備を行う。	A	A	A	B	A
スポーツ施設の一体管理	各体育館や緑ヶ丘公園スポーツ施設の効果的・効率的な運営のため、指定管理者による一体管理を行う。	B	B	B	B	A



## 2 苫小牧市民の運動・スポーツ活動実態調査概要

### (1) 調査方法

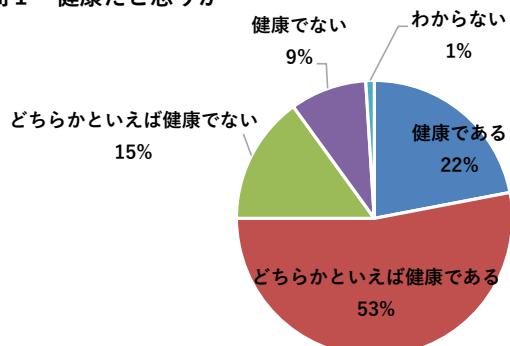
- ア 回答期間 令和7年3月21日から5月2日まで  
イ 調査方法 郵送又は電子による回答  
ウ 調査対象者 住民基本台帳から無作為抽出した、満16歳以上の市民3,000人

### (2) 回答結果

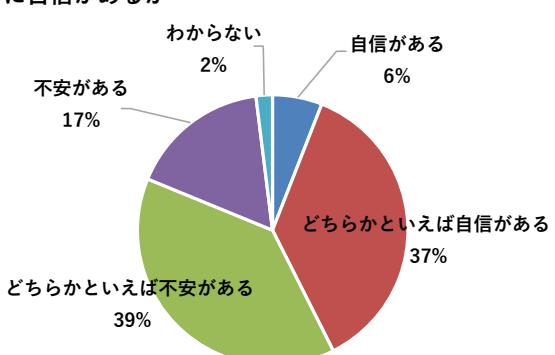
- ア 回答数 969件/3,000件（※前回実績 1,212件/3,000件）  
(ア) 郵送：613件  
(イ) 電子：356件  
イ 回答率 32%（※前回実績 40%）

### (3) 回答データ

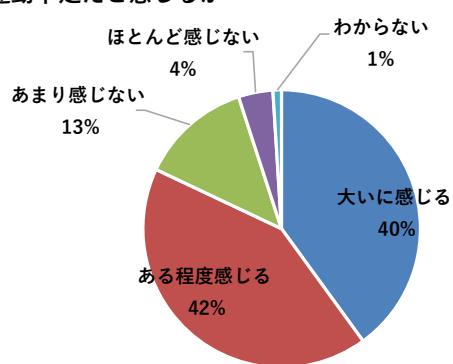
#### 問1 健康だと思うか



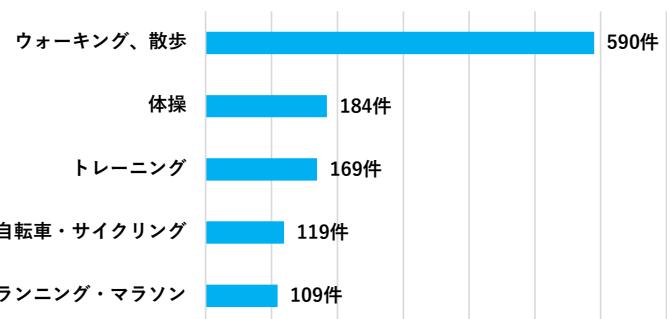
#### 問2 体力に自信があるか



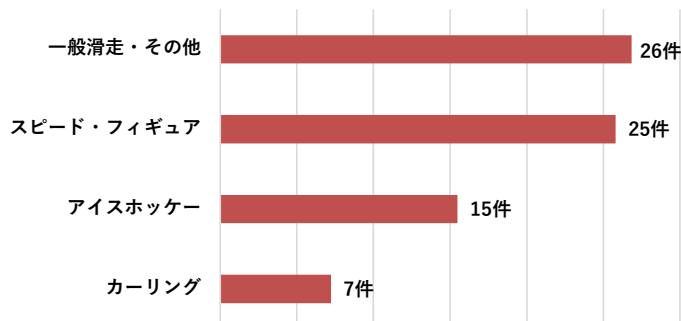
#### 問3 運動不足だと感じるか



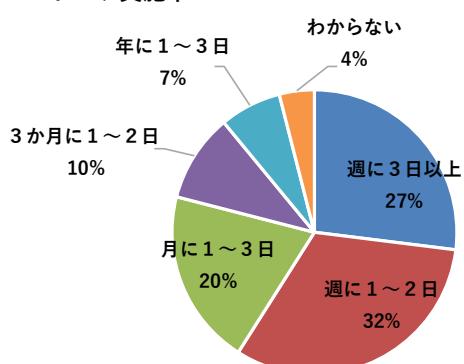
#### 問4 この1年間に行ったスポーツ（上位5件）



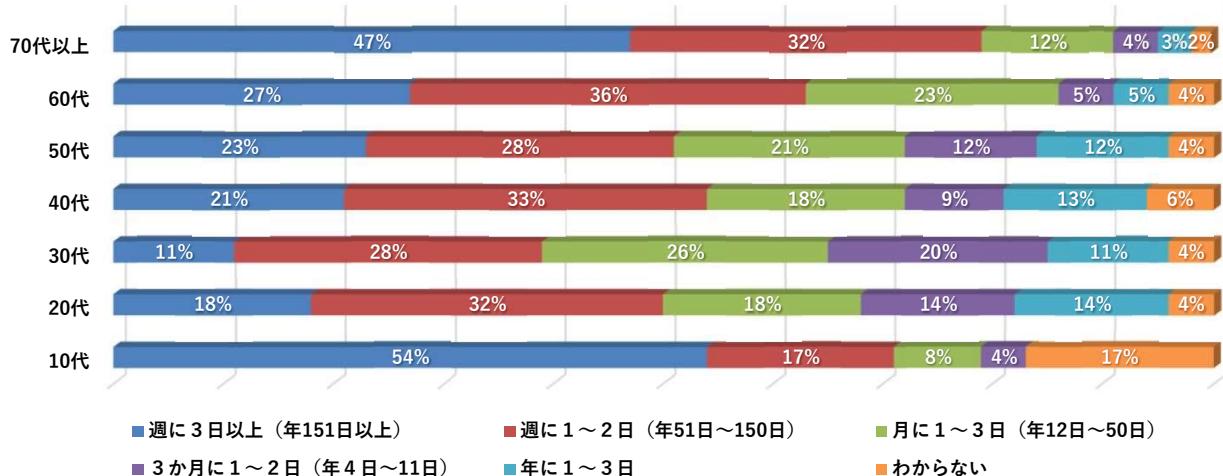
#### 問4-1 この1年間に行ったスポーツ（氷上スポーツ）



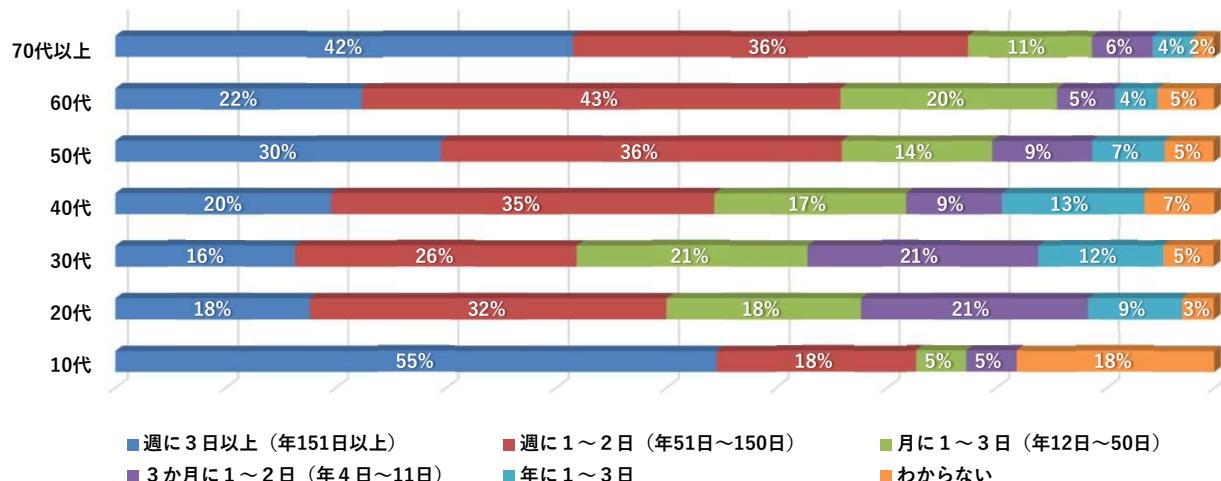
#### 問5 スポーツ実施率



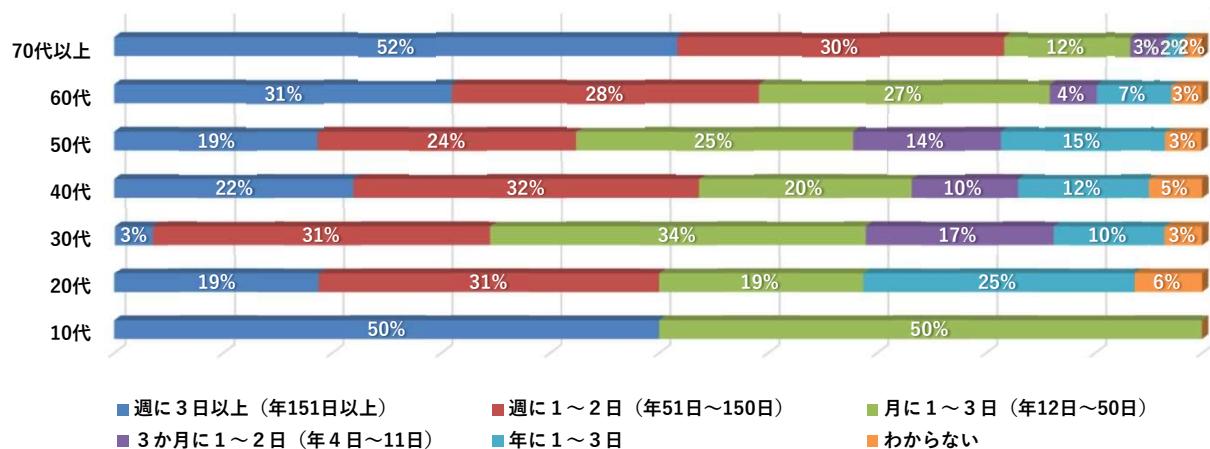
### 問5-1 スポーツ実施率 (年代別)



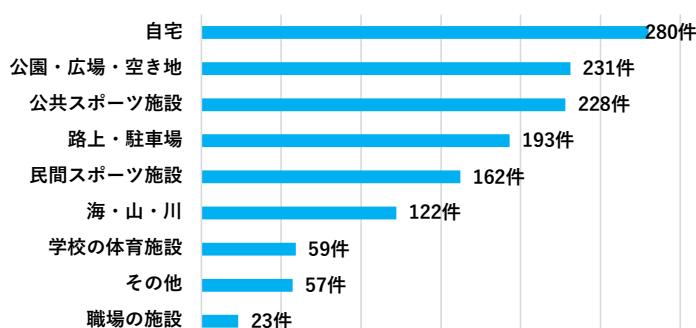
### 問5-2 スポーツ実施率 (男性)



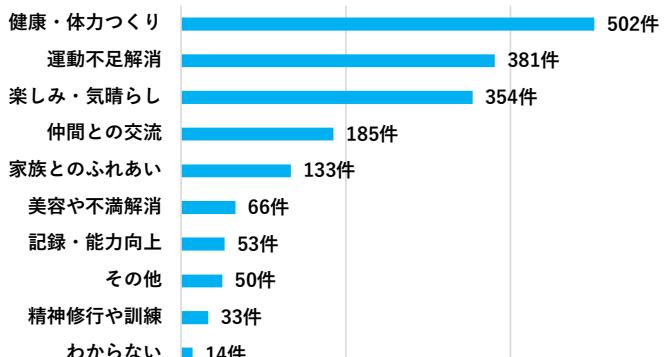
### 問5-3 スポーツ実施率 (女性)



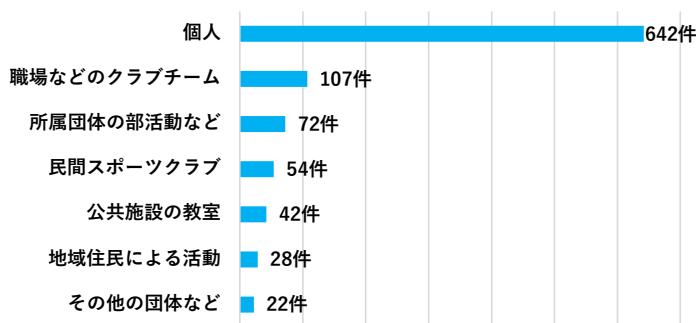
### 問7 スポーツを最もよく行う場所



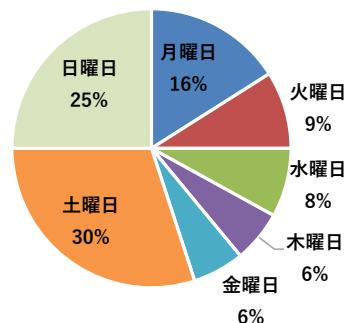
### 問6 スポーツを行う理由



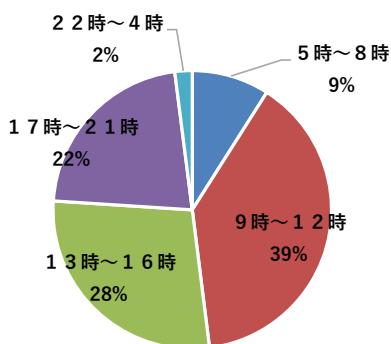
### 問8 スポーツを行う際の参加形態



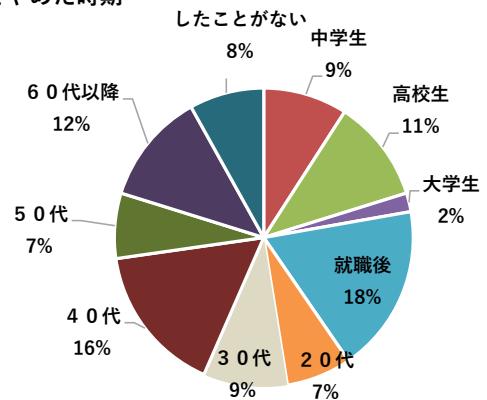
### 問9 スポーツを最もよく行う曜日



### 問10 スポーツを最もよく行う時間帯



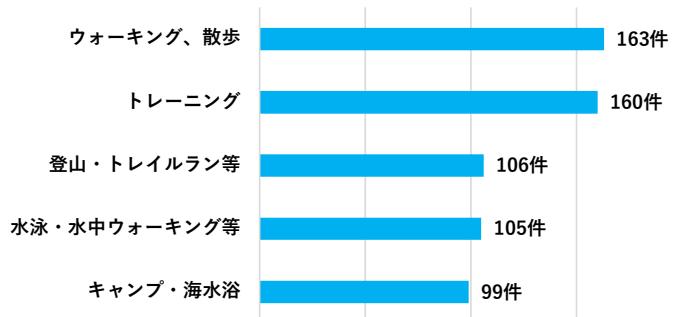
### 問11 スポーツをやめた時期



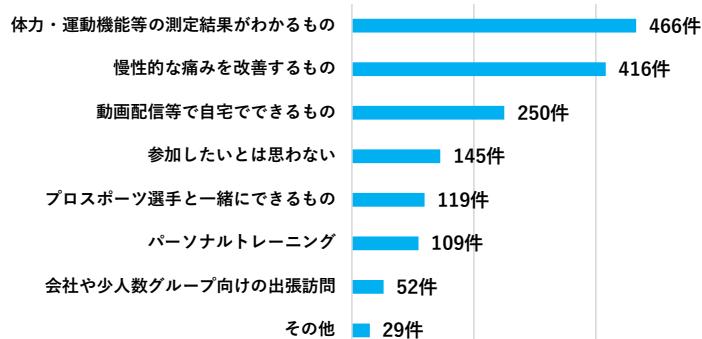
### 問12 スポーツをやめた理由



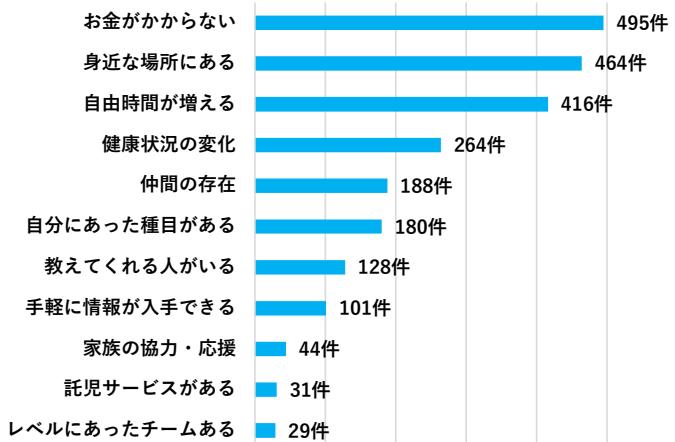
### 問13 今後行ってみたいスポーツ種目



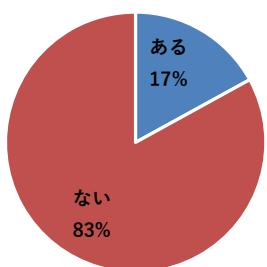
問14 参加したい・してみたいと思うプログラム



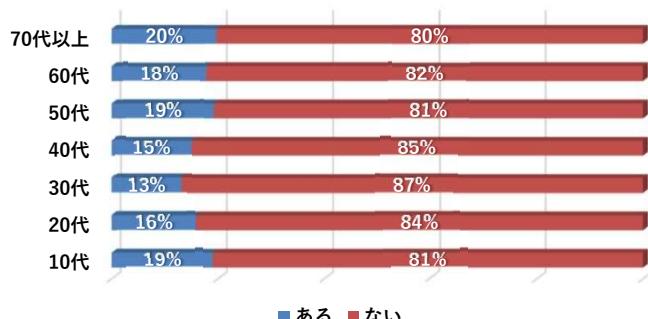
問15 新たにスポーツを始める際に重要なこと



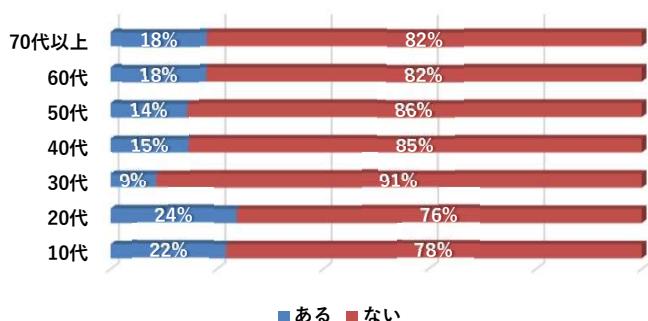
問16 地域のスポーツ活動への参加状況



問16-1 地域のスポーツ活動への参加状況 (年代別)

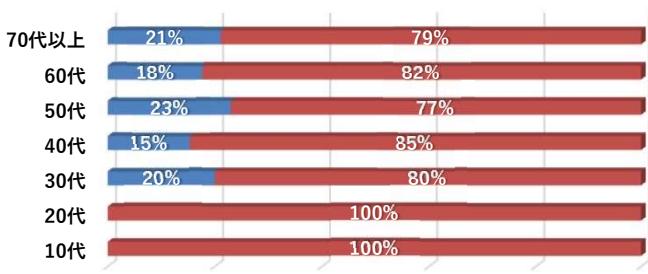


問16-2 地域のスポーツ活動への参加状況 (男性)



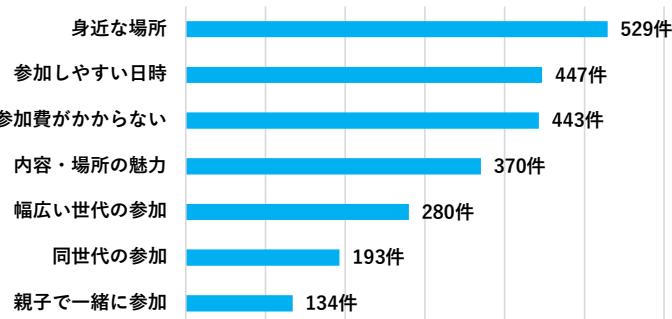
■ある ■ない

問16-3 地域のスポーツ活動への参加状況 (女性)

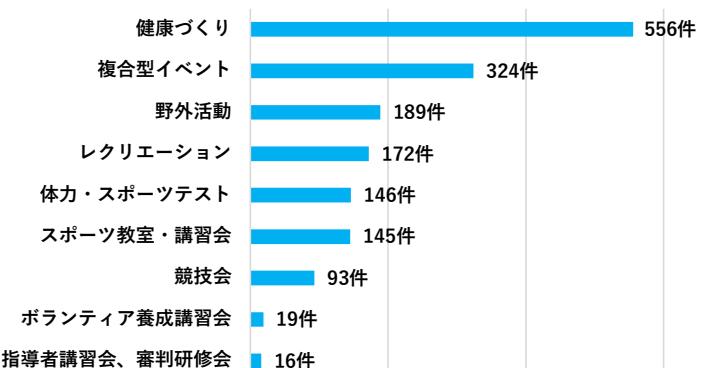


■ある ■ない

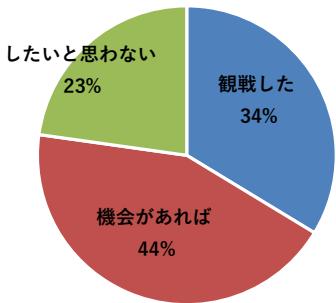
問17 地域のスポーツ活動に参加するために重要なこと



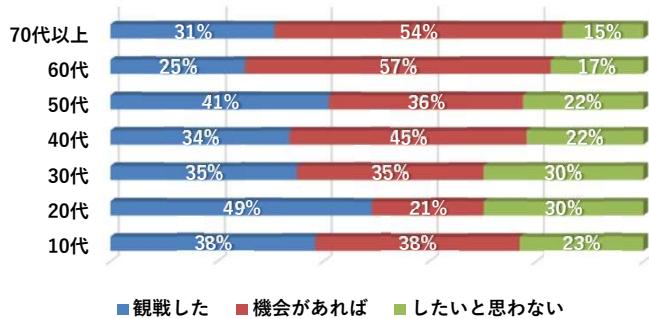
問18 参加したいと思うスポーツ行事



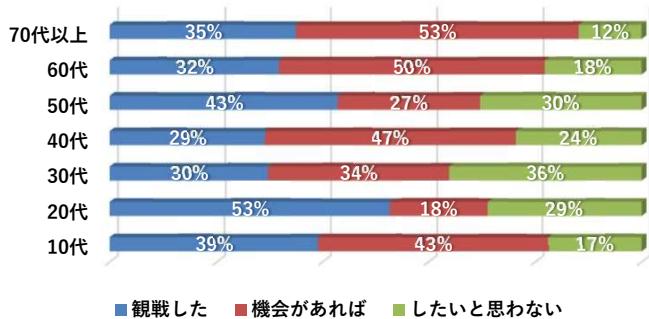
問19 スポーツ観戦率



問19-1 スポーツ観戦率 (年代別)

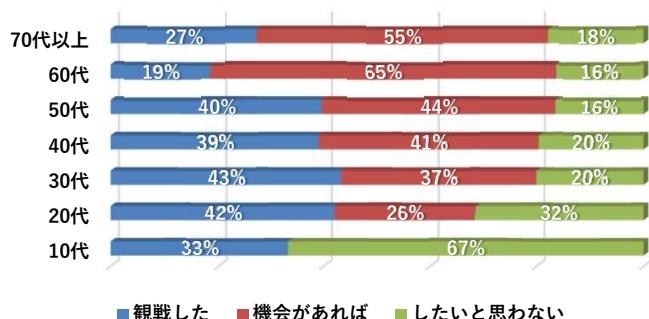


問19-2 スポーツ観戦率 (男性)



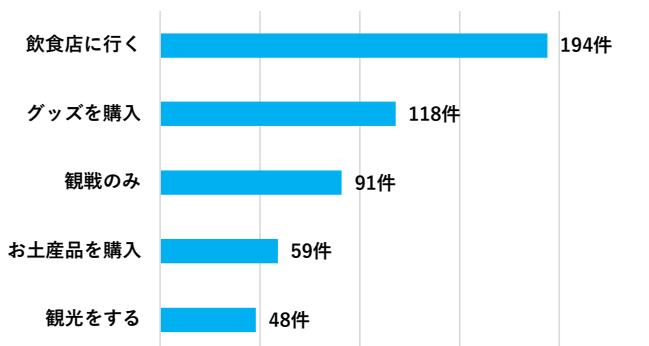
■観戦した ■機会があれば ■したいと思わない

問19-3 スポーツ観戦率 (女性)

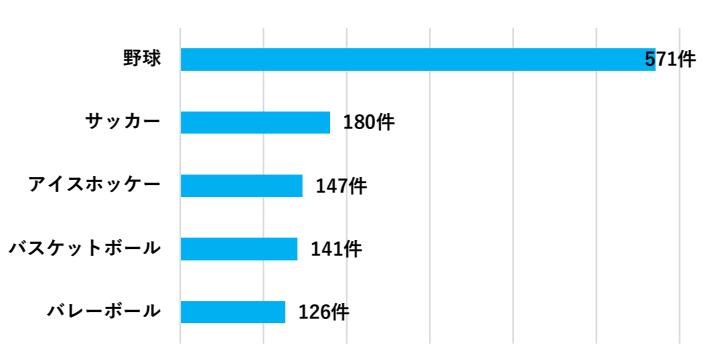


■観戦した ■機会があれば ■したいと思わない

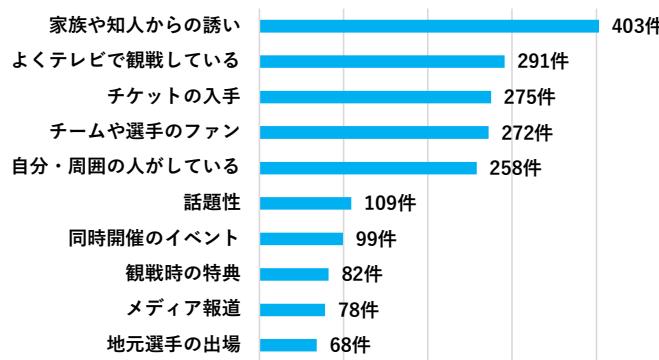
問20 観戦時の行動



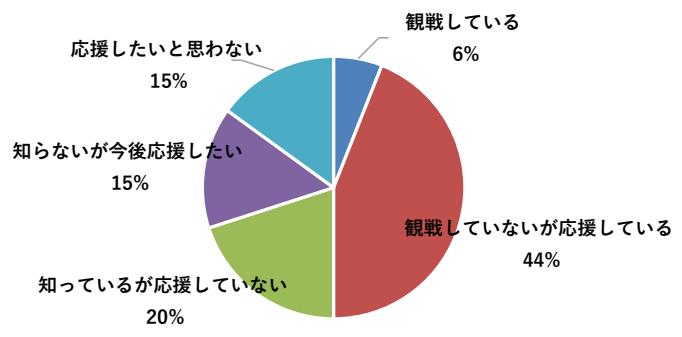
問21 観戦したいスポーツ (上位5件)



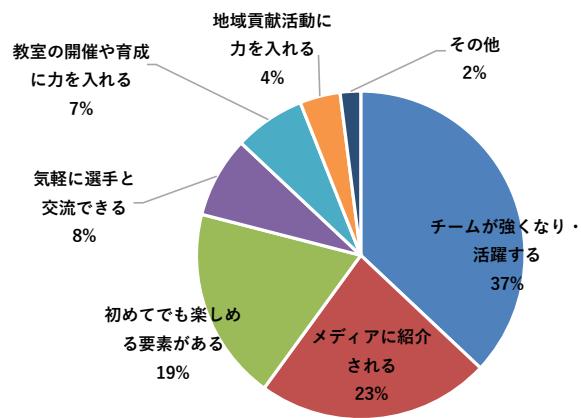
問22 観戦のきっかけ



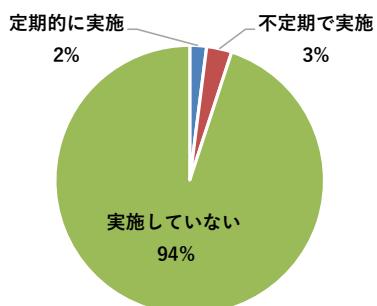
問23 地元出身アスリートの観戦率



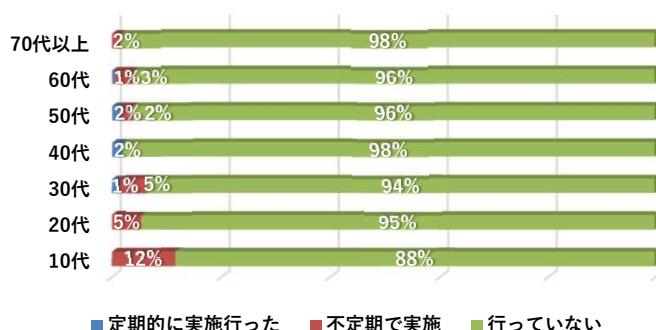
問24 地元出身アスリートを応援するためには



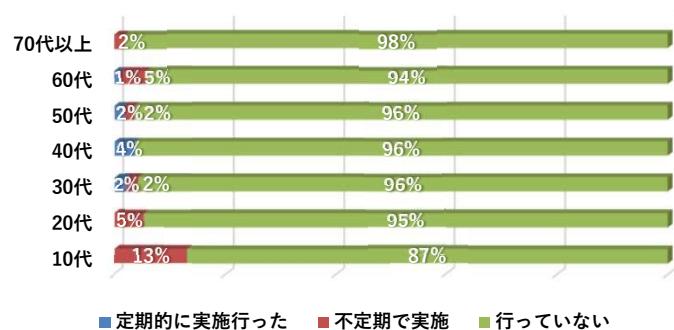
問25 スポーツボランティア実施率



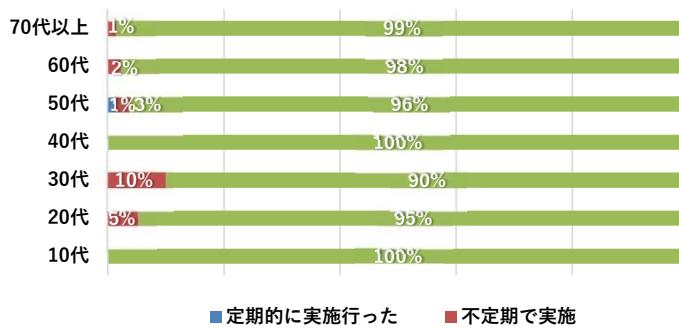
問25-1 スポーツボランティア実施率（年代別）



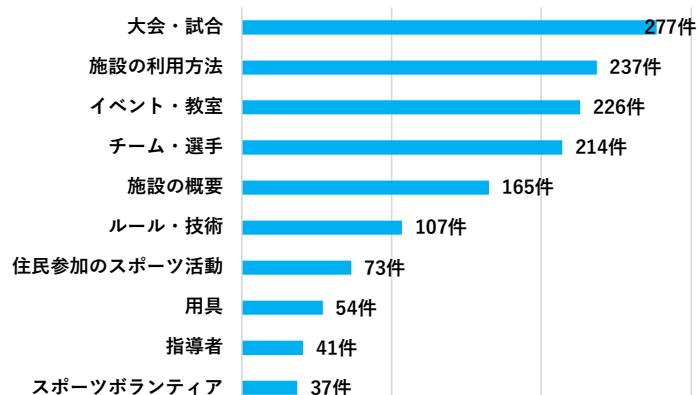
問25-2 スポーツボランティア実施率（男性）



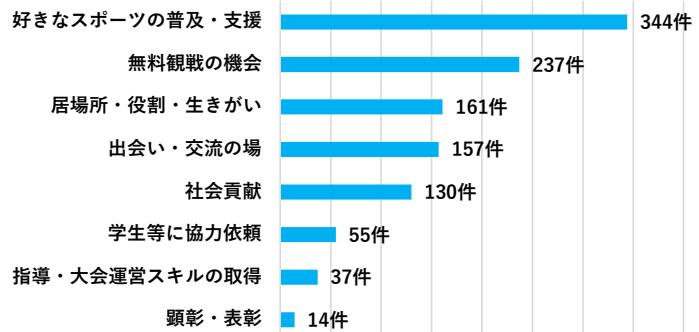
問25-3 スポーツボランティア実施率（女性）



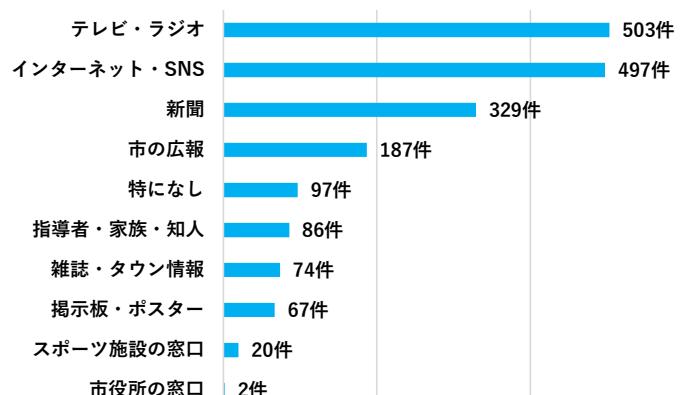
問27 運動・スポーツに関してどんな情報に興味があるか



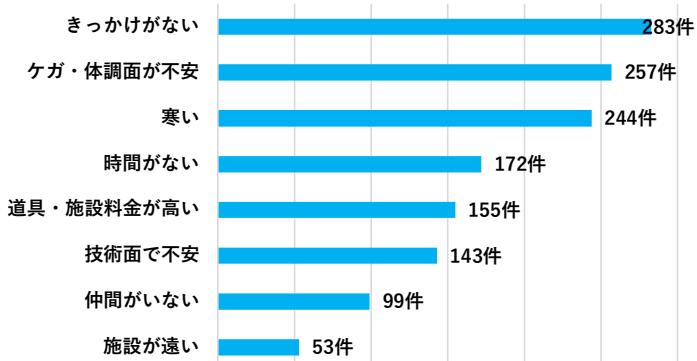
問26 スポーツボランティアを行うために必要なこと



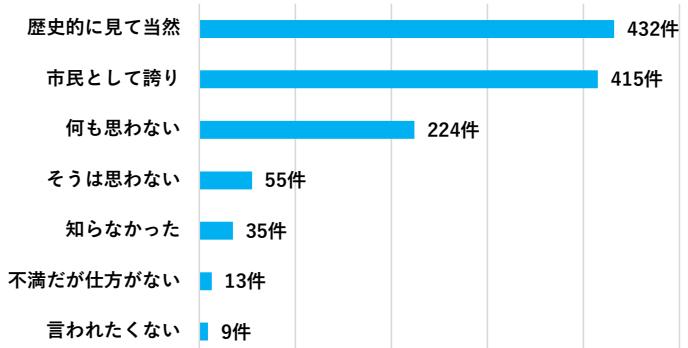
問28 運動・スポーツに関する情報を何から得ているか



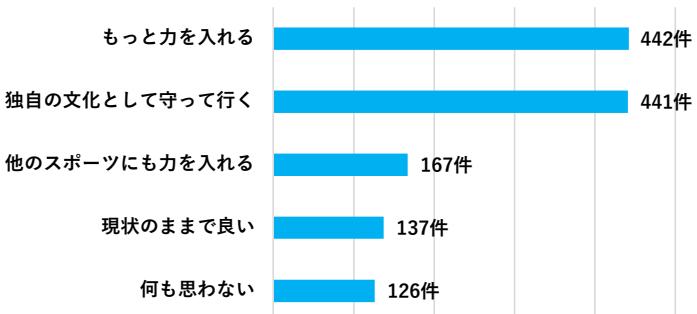
### 問29 氷上スポーツをしない理由



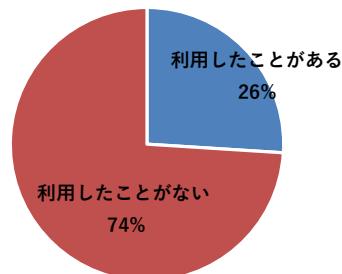
### 問30 氷都に対しての意識



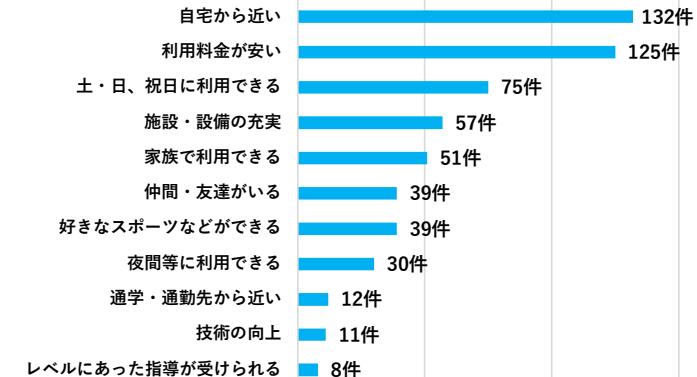
### 問31 氷都としてどういくべきか



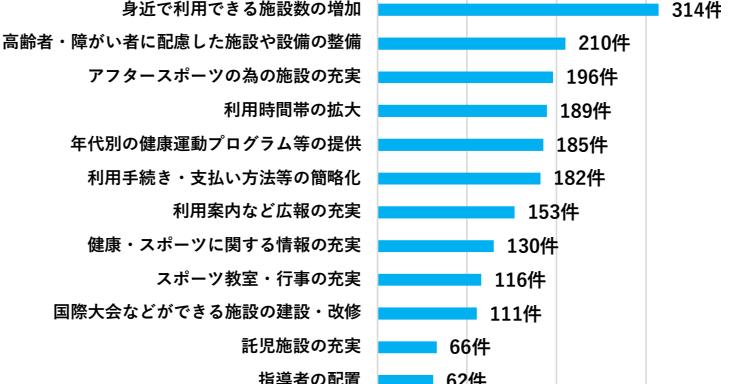
### 問32 スポーツ施設の利用状況



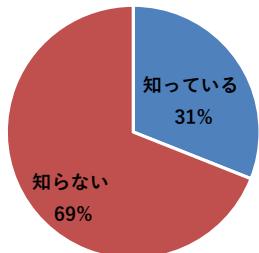
### 問33 スポーツ施設を利用する理由



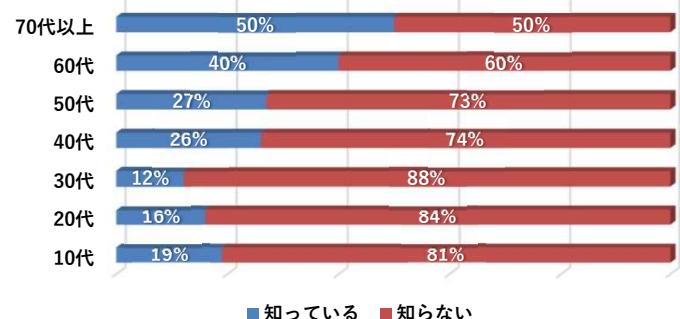
### 問34 スポーツ施設に望むこと



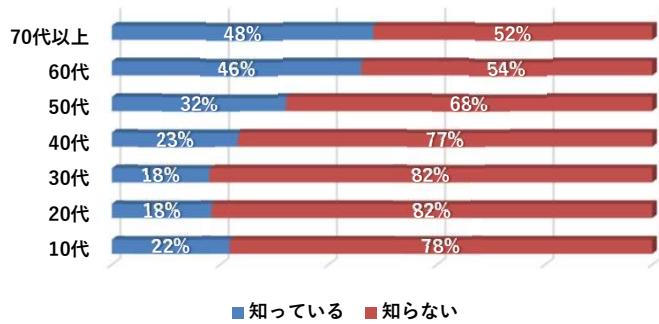
### 問35 スポーツ都市宣言の認知度



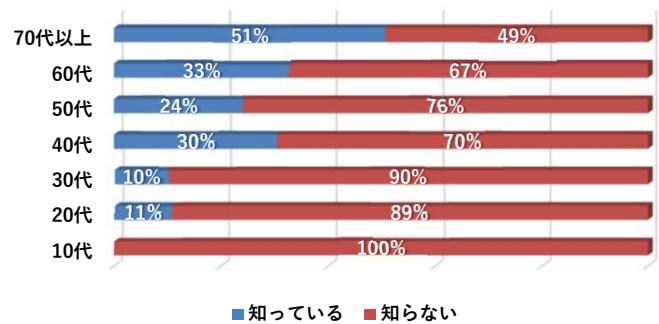
### 問35-1 スポーツ都市宣言の認知度（年代別）



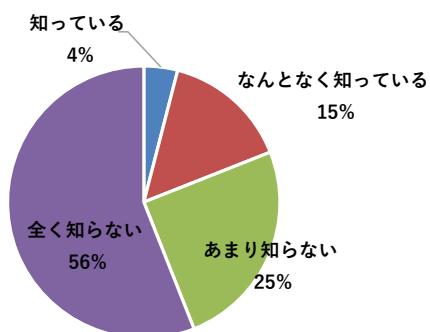
問35-2 スポーツ都市宣言の認知度（男性）



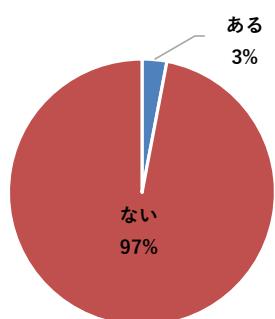
問35-3 スポーツ都市宣言の認知度（女性）



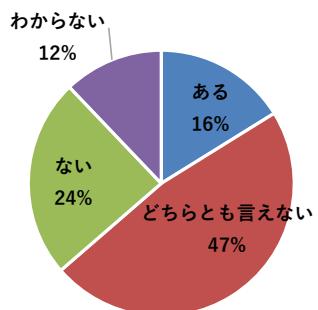
問36 スポーツ都市宣言の内容について



問38 障がい者スポーツを体験したことがあるか



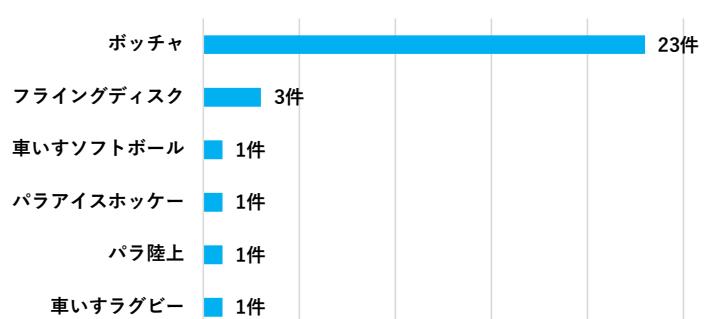
問40 障がい者スポーツへの関心



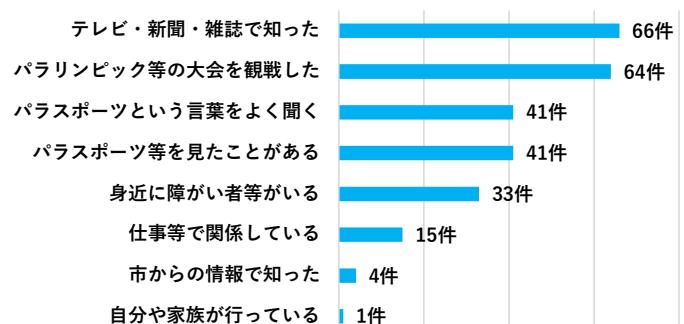
問37 力を入れてほしい施策



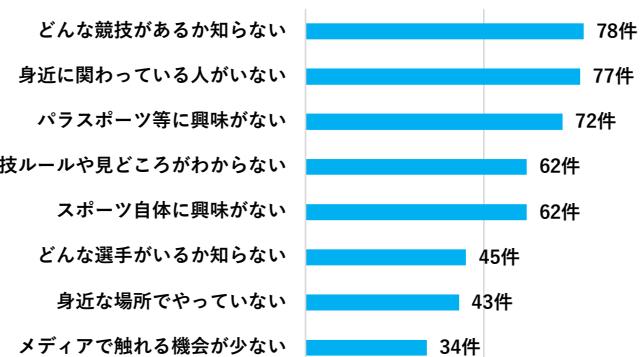
問39 体験したことのある障がい者スポーツ



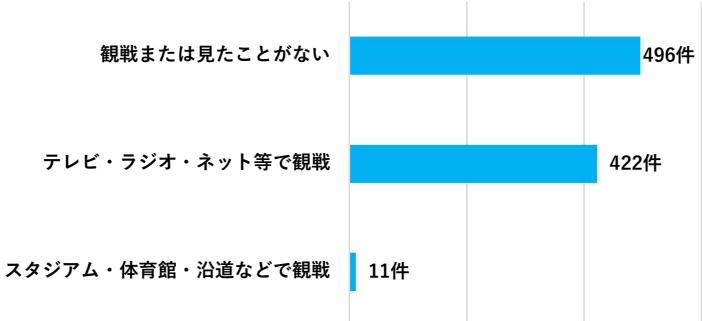
問41 障がい者スポーツに関心がある理由



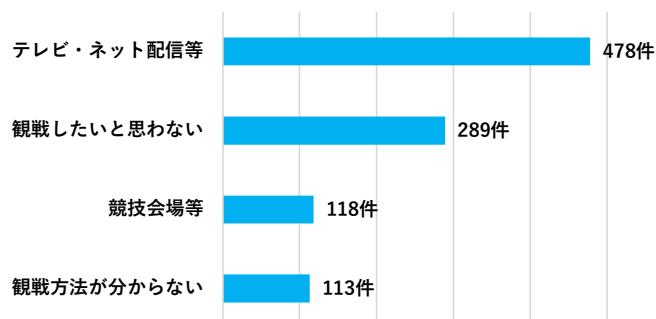
問42 障がいスポーツに関心がない理由



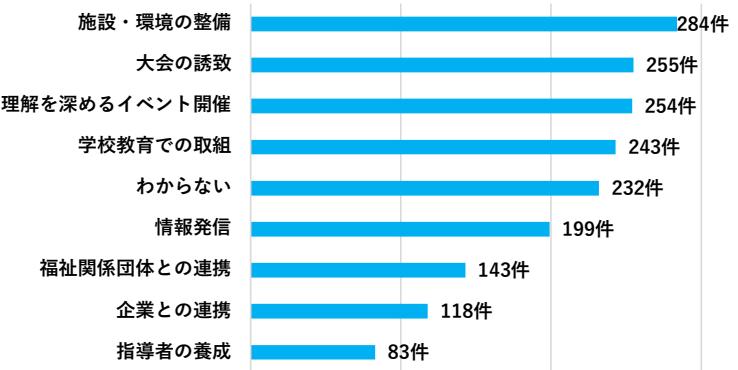
問43 障がい者スポーツの1年間の観戦状況



問44 障がい者スポーツの観戦方法



問45 障がいスポーツの推進のために取り組むこと



### 3 障がいのある方の運動・スポーツ活動実態調査概要

#### (1) 調査方法

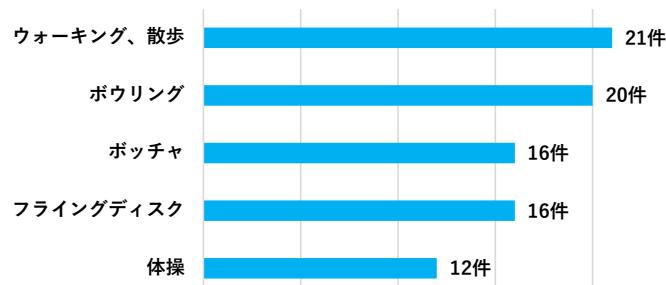
- ア 回答期間 令和7年3月11日から4月11日まで  
イ 調査方法 郵送又は電子による回答  
ウ 調査対象者 (ア) 苫小牧市身体障がい者福祉連合会の会員 75名  
(イ) 苫小牧市手をつなぐ育成会の会員 80名 計155名

#### (2) 回答結果

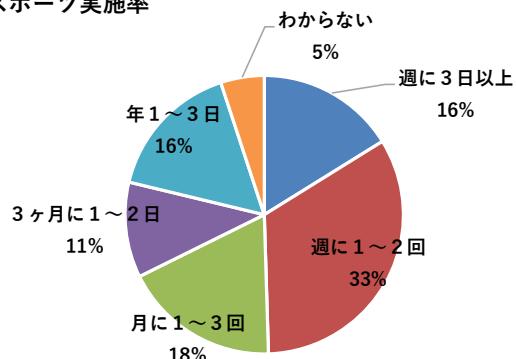
- ア 回答数 78件/155件（※前回実績 161件/300件）  
(ア)郵送：76件  
(イ)電子：2件  
イ 回答率 49%（※前回実績 54%）

#### (3) 回答データ

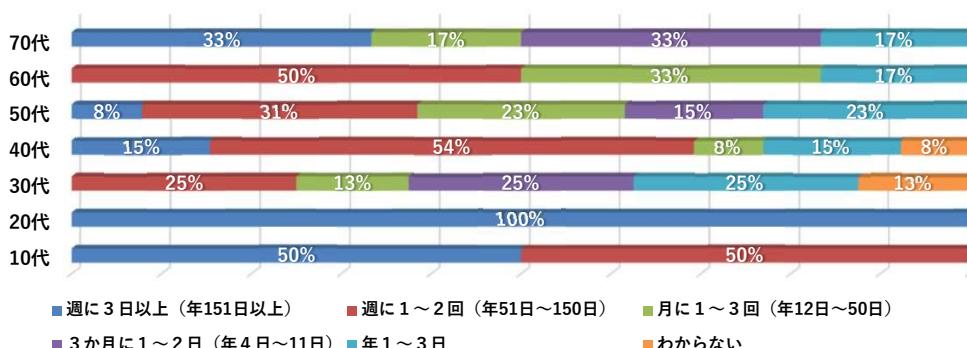
##### 問1 この1年間で行ったスポーツ種目（上位5件）



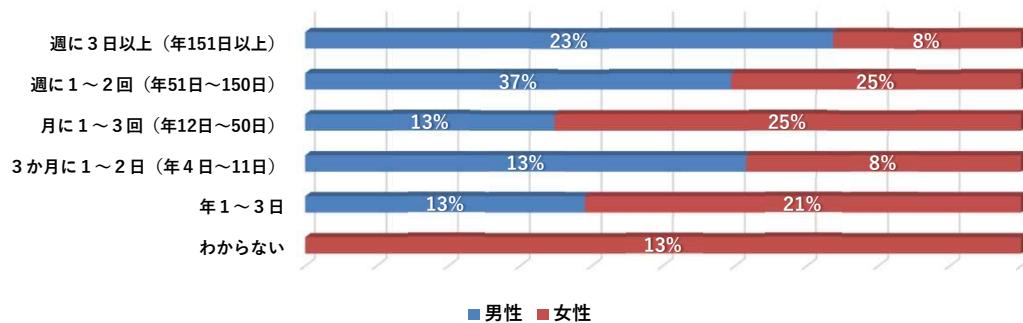
##### 問2 スポーツ実施率



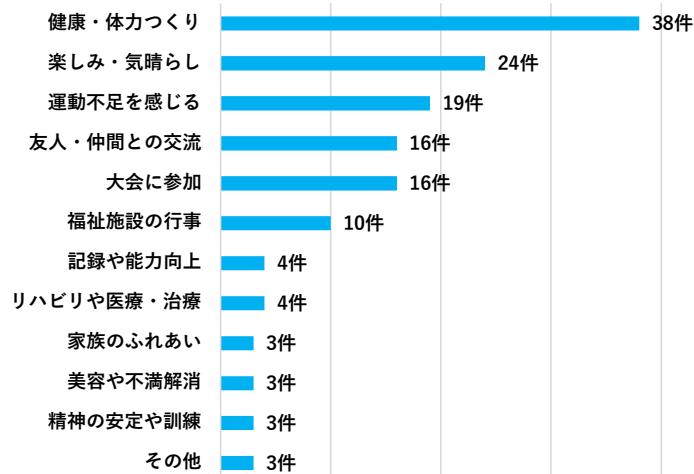
##### 問2-1 スポーツ実施率（年代別）



##### 問2-2 スポーツ実施率（男女別）



### 問3 スポーツをした理由



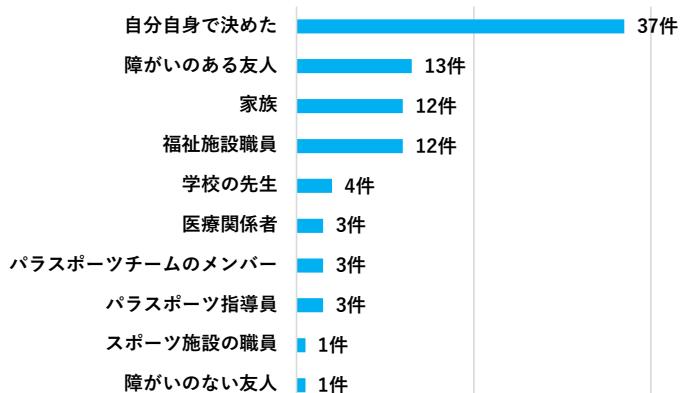
### 問4 スポーツを行って良かったこと



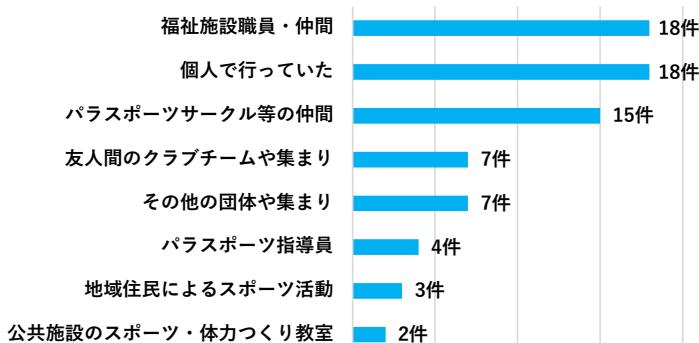
### 問5 スポーツを最もよく行う場所



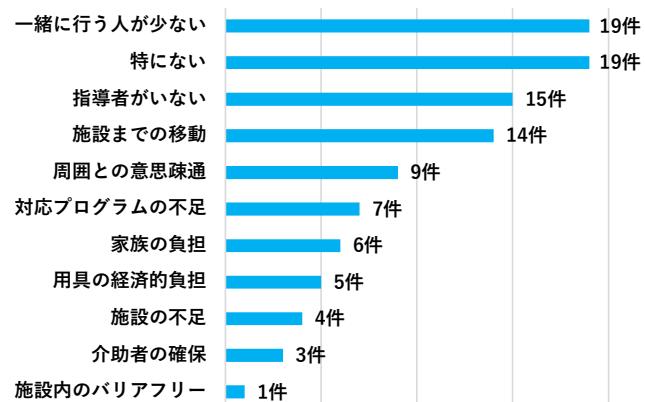
### 問6 運動・スポーツを勧めてくれた人



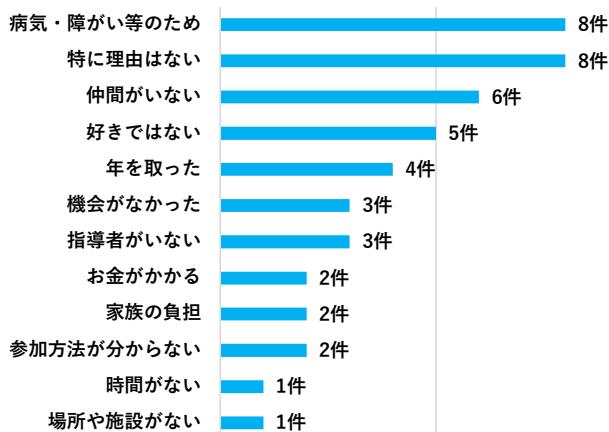
### 問7 スポーツを一緒に行う仲間



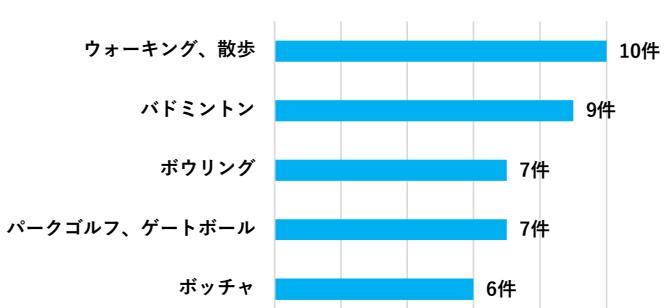
### 問8 スポーツを行う上での課題



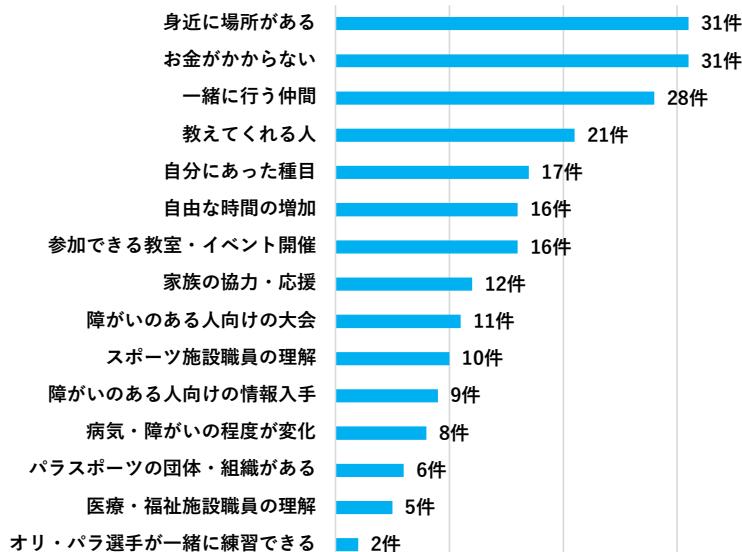
問9 過去1年間スポーツをしなかった理由



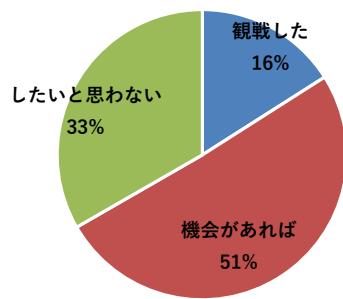
問10 今後行ってみたいスポーツ種目（上位5件）



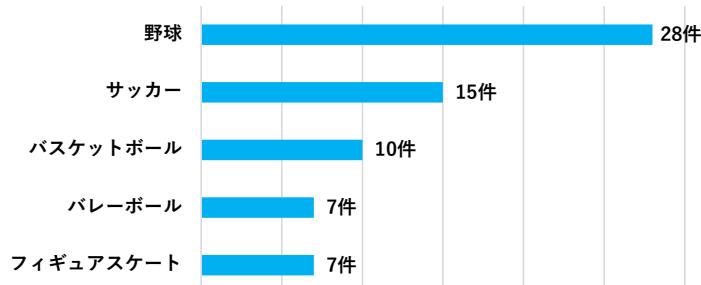
問11 新しくスポーツを始める（今以上に行うため）に重要なこと



問12 過去1年間に直接スポーツを観戦したか



問13 観戦した（したい）スポーツ種目（上位5）



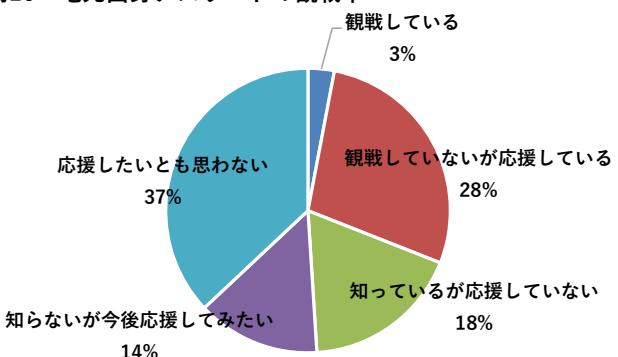
問14 観戦する上での課題



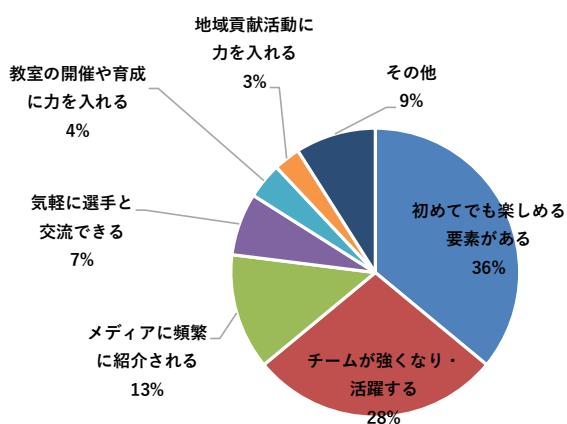
問15 スポーツ観戦をした（する）きっかけ



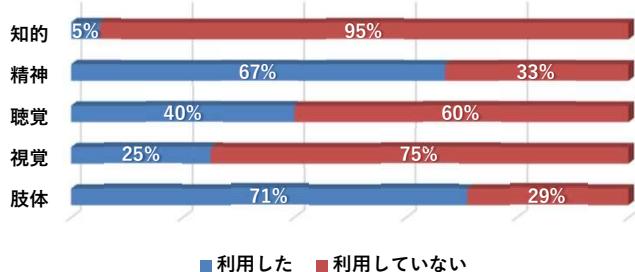
問16 地元出身アスリートの観戦率



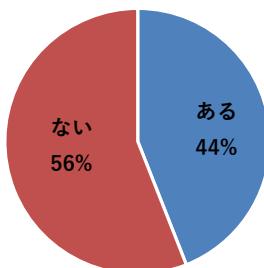
問17 地元出身アスリートを応援するには



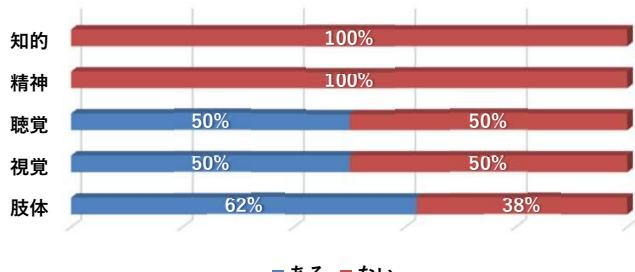
問18-1 過去1年間に市営スポーツ施設を利用したか（障がい別）



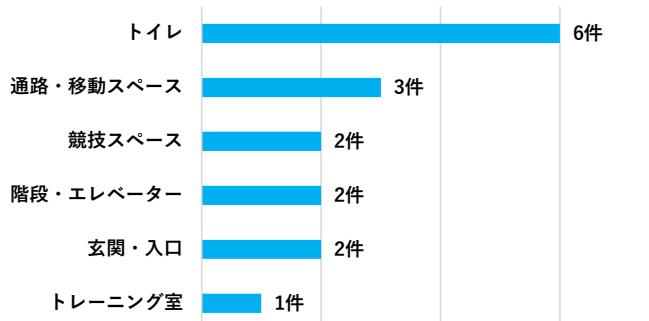
問19 バリアフリー化が進んでいる施設はあるか



問19-1 バリアフリー化が進んでいる施設はあるか（障がい別）



問20 施設で利便性が良くないと感じる所



## 4 苫小牧市での合宿に関する調査概要

### (1) 調査方法

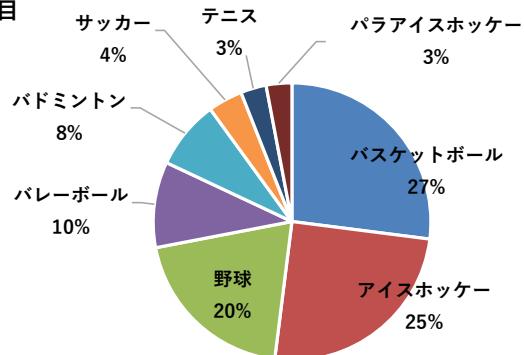
- ア 回答期間 令和7年3月1日から4月30日まで  
イ 調査方法 電子による回答  
ウ 調査対象者 (ア) 令和6年度市内合宿来訪団体 83団体 (国内:78 国外:5)  
(イ) 市内宿泊事業者 9事業者 ※上記団体が利用した施設

### (2) 回答結果

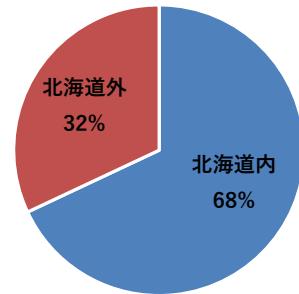
- ア 回答数 (ア) 来訪団体 44件/83件 (国内:40 国外:4)  
(イ) 宿泊事業者 7件/9件  
イ 回答率 (ア) 来訪団体 53%  
(イ) 宿泊事業者 77%

### (3) 回答データ (来訪団体)

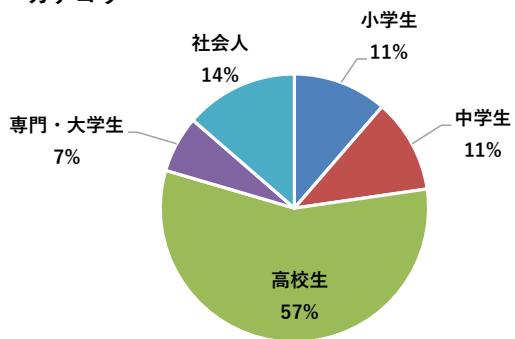
問1 種目



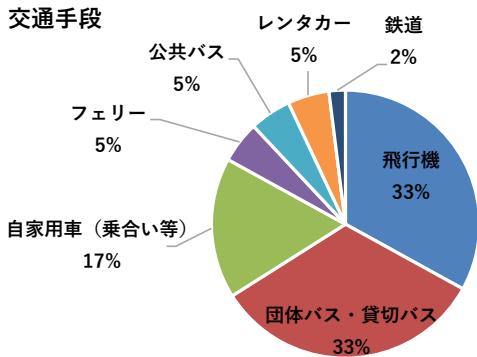
問2 所在地



問3 カテゴリ



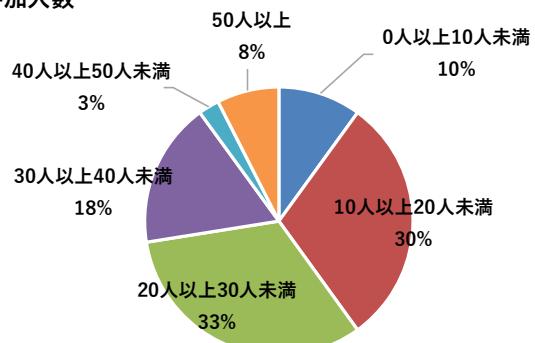
問4 交通手段



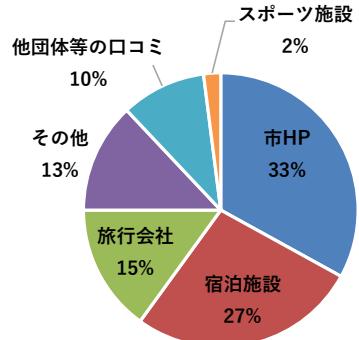
問5 苫小牧での合宿回数



問6 合宿参加人数



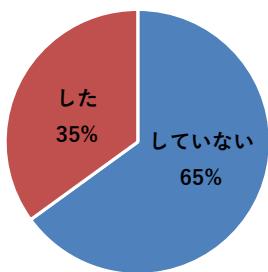
問7 合宿助成金を何で知ったか



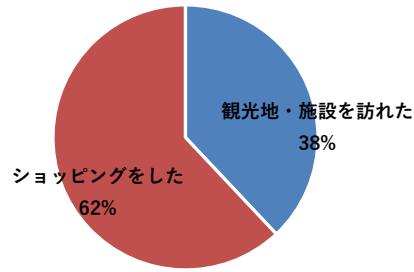
問8 苛小牧を選んだ理由



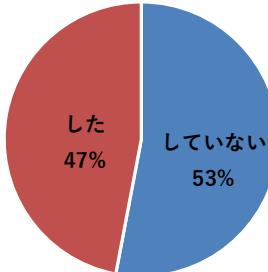
問9 観光やショッピングをしたか



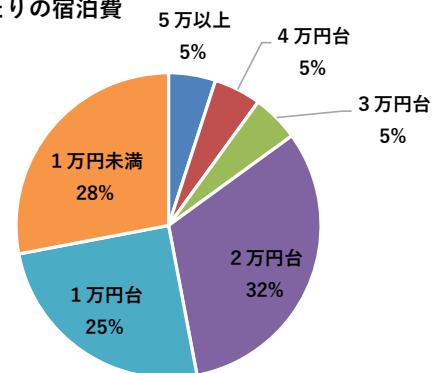
問10 観光などについて、どのようなことをしたか



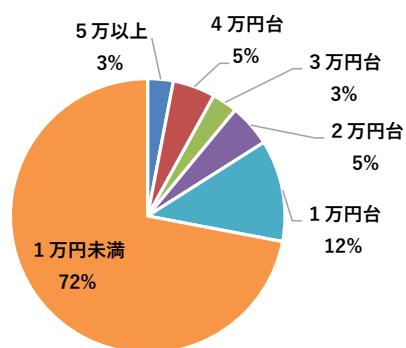
問11 宿泊施設以外での飲食



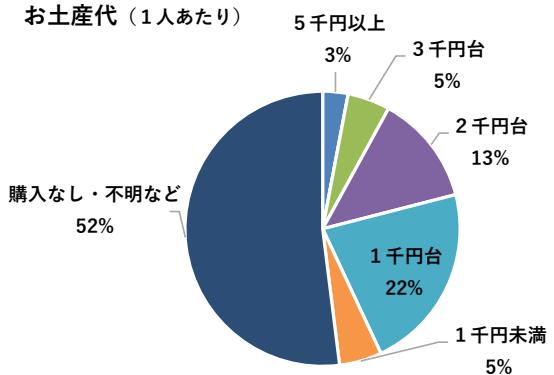
問12 1人1泊あたりの宿泊費



問13 市内での交通費（1人あたり）

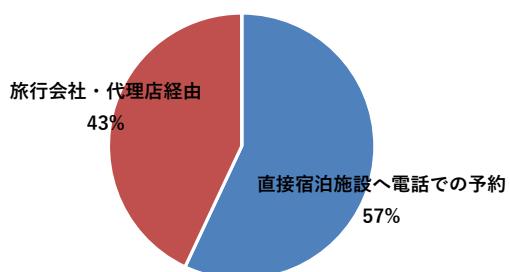


問14 お土産代（1人あたり）

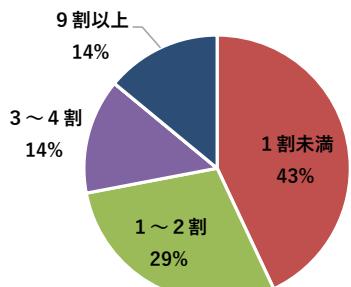


#### (4) 回答データ（宿泊事業者）

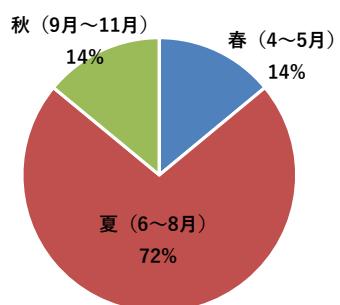
問1 スポーツ合宿に伴う宿泊で、一番多い予約方法



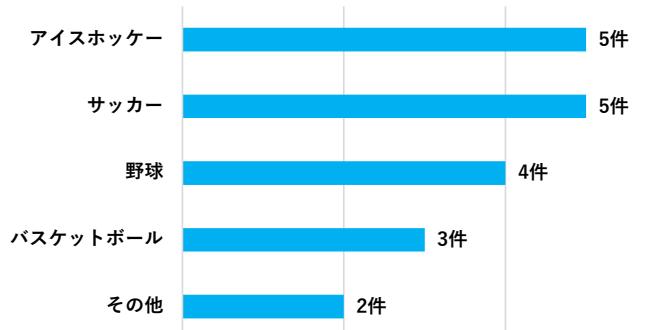
問2 宿泊件数に対して、スポーツ合宿が占める割合



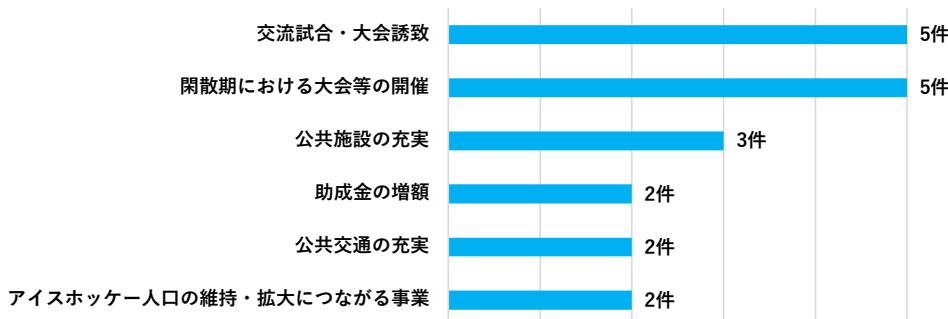
問3 スポーツ合宿による宿泊が多い時期



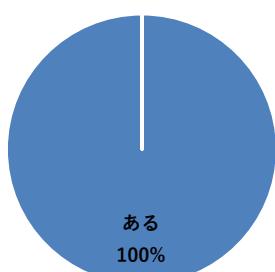
問4 経済効果が見込まれるスポーツ種目（上位5件）



問5 スポーツ行政に求めるもの



問6 スポーツ合宿した団体への食事提供



問7 提供した食事メニュー



## 5 スポーツ指導者の実態調査概要

### (1) 調査方法

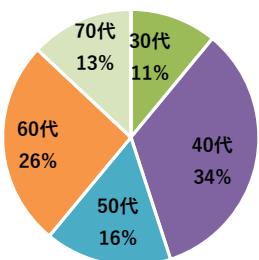
- ア 回答期間 令和7年3月13日から4月18日まで  
イ 調査方法 電子による回答  
ウ 調査対象者 市内スポーツ少年団指導者及びスポーツ協会加盟競技団体指導者

### (2) 回答結果

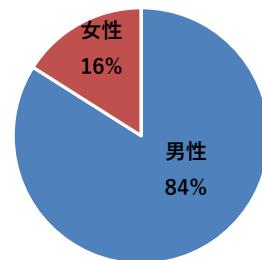
回答数 38件

### (3) 回答データ

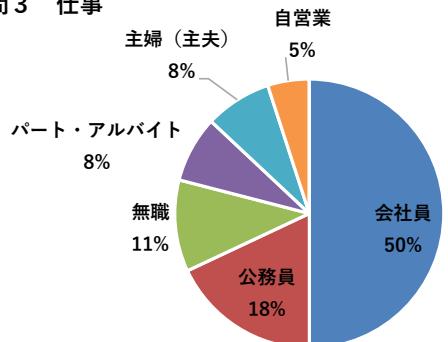
問1 年代



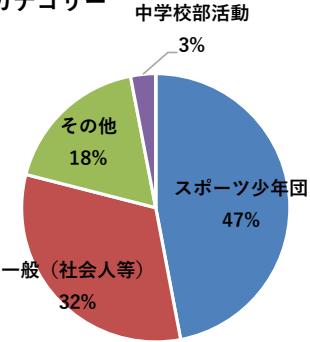
問2 性別



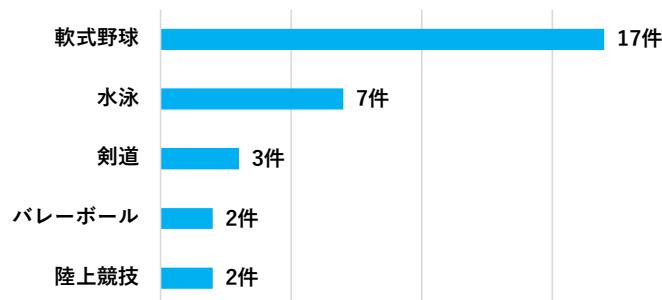
問3 仕事



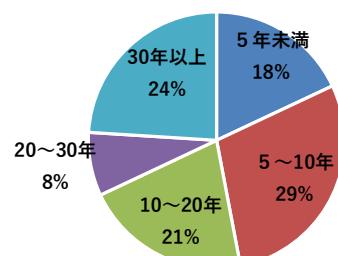
問4 指導カテゴリー



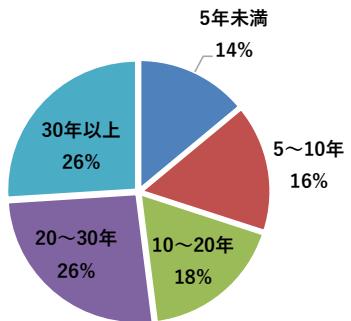
問5 メインで指導しているスポーツ種目（上位5件）



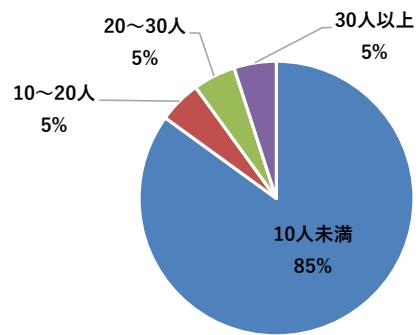
問6 指導経験年数



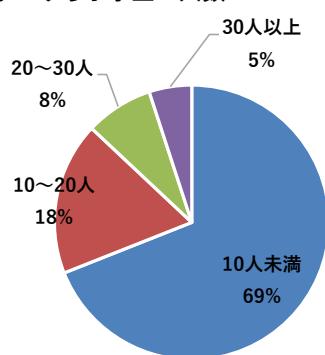
問7 競技者としての経験年数



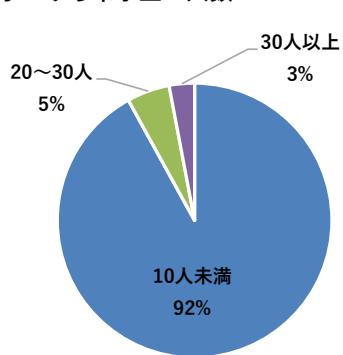
問8 選手のうち幼児（就学前）の人数



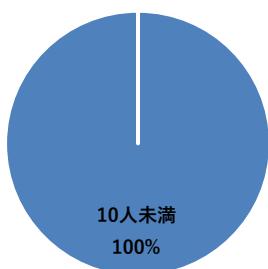
問9 選手のうち小学生の人数



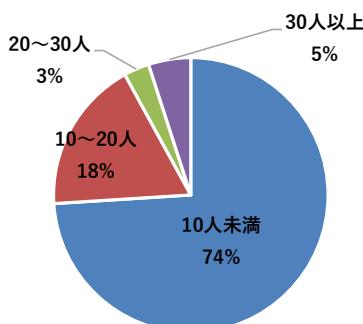
問10 選手のうち中学生の人数



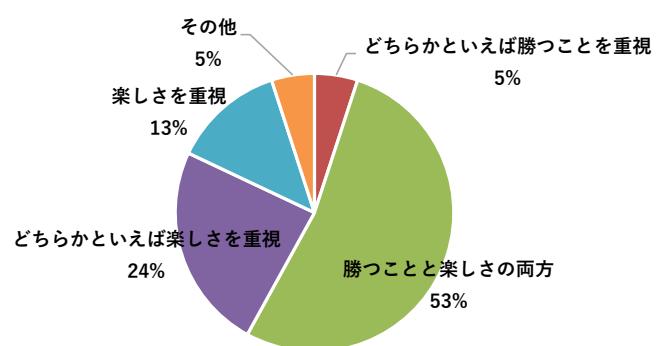
問11 選手のうち高校生の人数



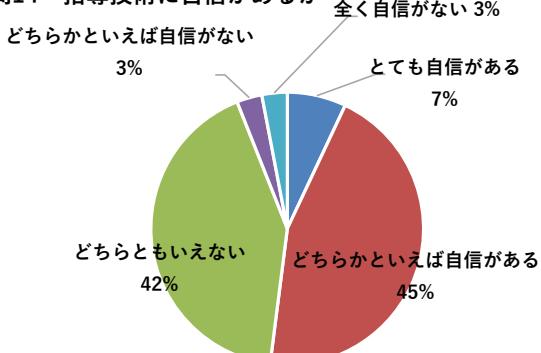
問12 選手のうち大学生・社会人等の人数



問13 指導方法に対する考え方



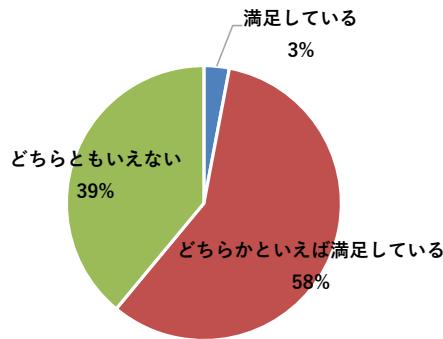
問14 指導技術に自信があるか



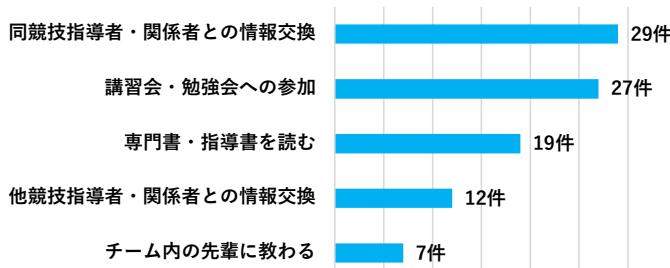
問15 指導によってどのような効果を期待しているか



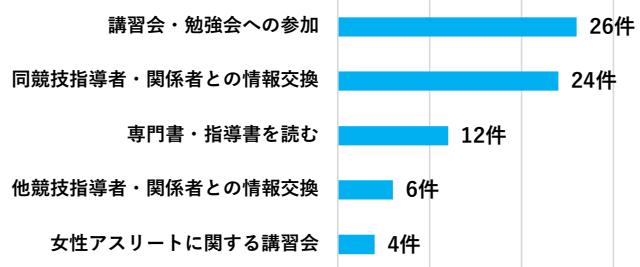
問16 指導に対して選手が満足していると思うか



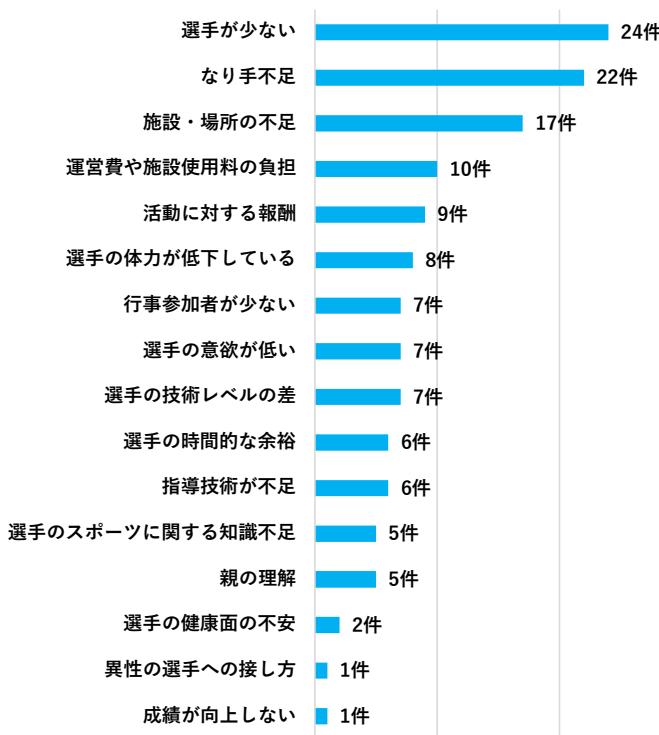
問17 コーチングスキルを向上させるために、  
行っていること



問18 コーチングスキルを向上させるために、  
新たに行いたいこと



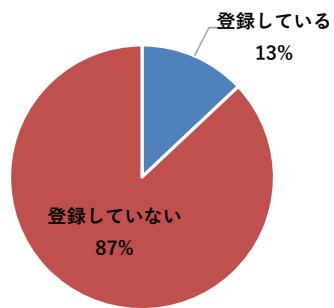
問19 指導していく上で問題になっていること



問20 指導していく上で抱えている課題



問21 TSPO人材バンク登録状況



問22 TSPO人材バンクに登録しない理由

TSPO人材バンクを知らない	16件
時間的に依頼に対応できない	11件
方法を知らないあるいは面倒	9件
体力的に依頼に対応できない	7件
レベルが依頼に対応できない	1件
指導報酬の基準が低額	1件

問23 力を入れてほしいスポーツ施策

スポーツ施設の充実	19件
競技人口の拡大	18件
指導者の育成・支援体制づくり	13件
子どもの頃から親しむ機会	8件
指導者同士の情報交換会	6件
施設利用やサービスに関する情報	6件
高齢者・障がい者が気軽に楽しむ機会	4件
プロと接することができる機会	4件
地域住民が参加するスポーツ活動	3件
特ない	3件
スポーツボランティア活動	2件
スポーツを活かした観光・産業	2件
気軽に参加できるイベント・大会	1件
ウインターポーツの活性化	1件
スポーツを通じた市民交流の活性化	1件
交通アクセスを生かした合宿等の誘致	1件

## 6 スポーツ施策に関する調査概要

### (1) 調査方法

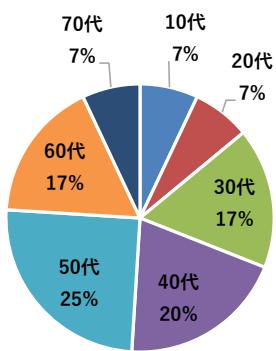
- ア 回答期間 令和7年3月19日から4月30日まで  
イ 調査方法 電子による回答  
ウ 調査対象者 スポーツ施設指定管理者職員（令和6年3月末時点の職員数164人）

### (2) 回答結果

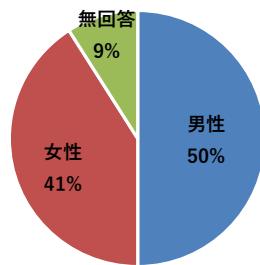
- ア 回答数 46件/164件  
イ 回答率 28%

### (3) 回答データ

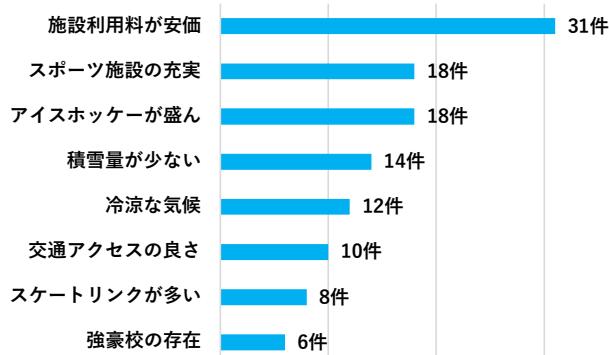
問1 年代



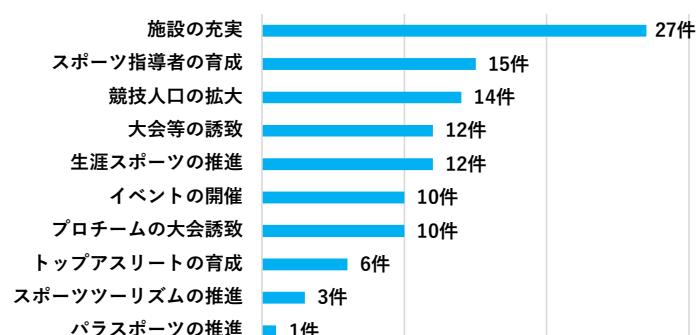
問2 性別



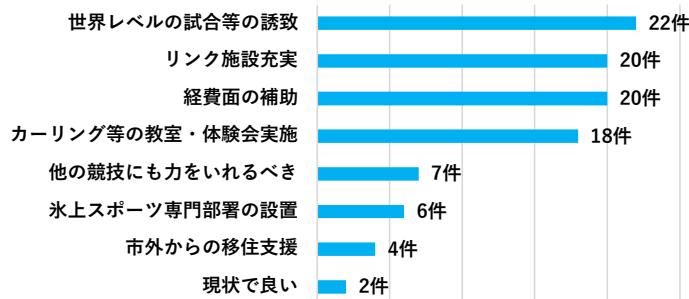
問3 市のスポーツ分野において優れている点



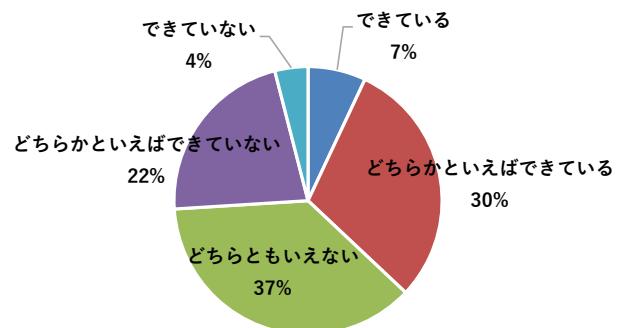
問4 スポーツ振興において、今後注力すべきこと



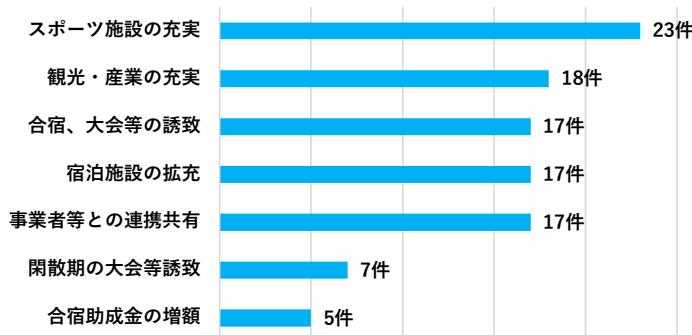
問5 氷上スポーツの競技人口拡大のための取組



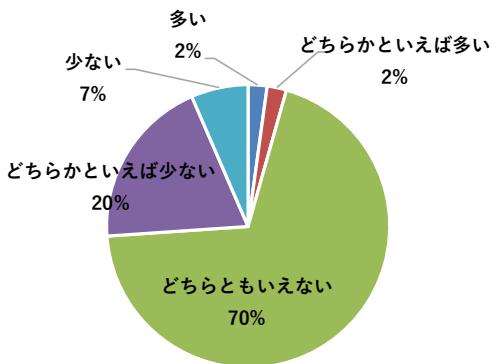
問6 スポーツツーリズムの実現度



問7 スポーツツーリズムの実現（充実）のために必要なこと



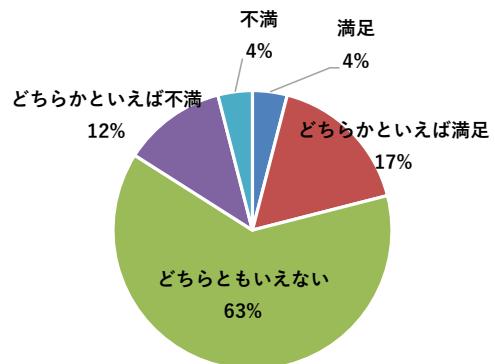
問8 スポーツボランティアに関わるもの的人数



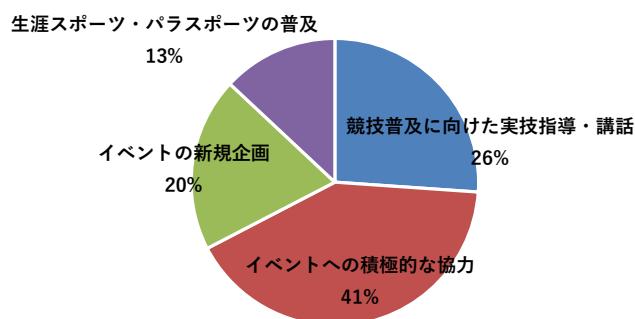
問9 スポーツボランティアが増えるために必要なこと



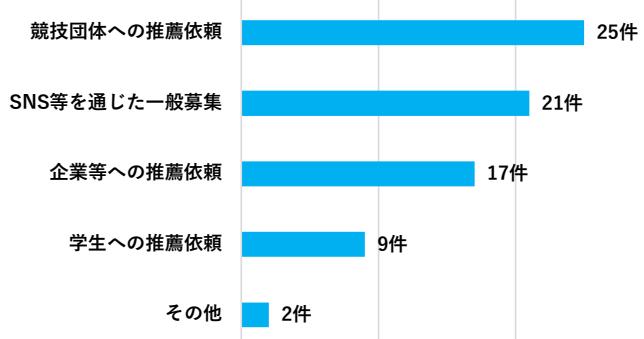
問10 スポーツ推進委員活動について



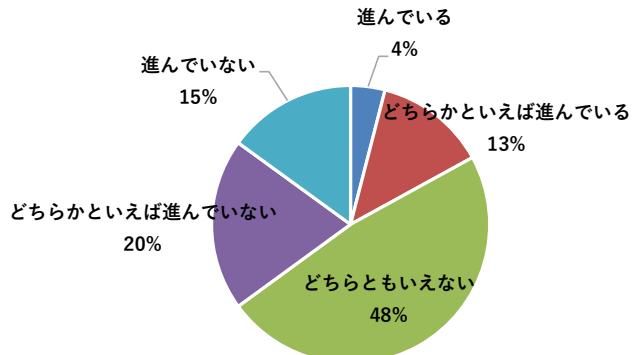
問11 スポーツ推進委員活動で最も必要なこと



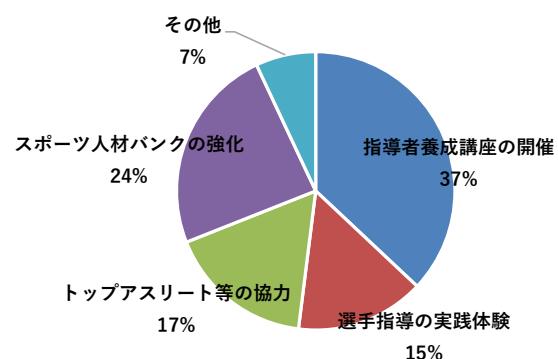
問12 スポーツ推進委員の募集方法



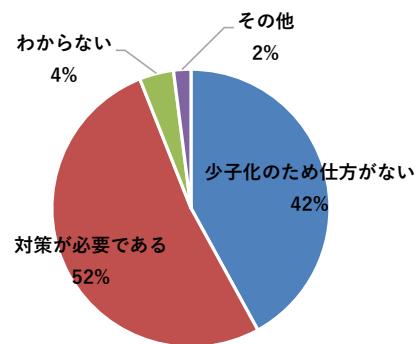
問13 指導者の育成について



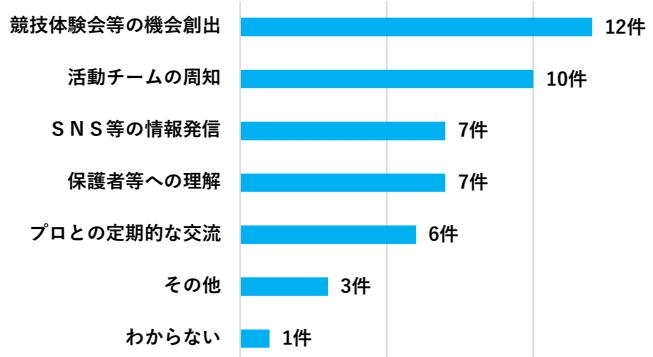
問14 指導者の育成に必要な取組



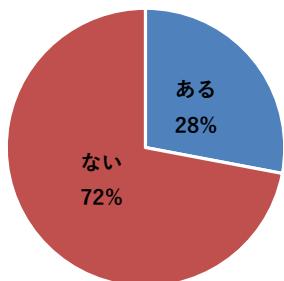
問15 スポーツ少年団の現状について



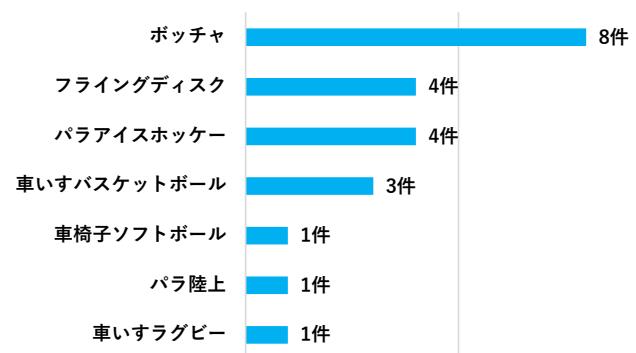
問16 スポーツ少年団（員）の減少対策として必要なもの



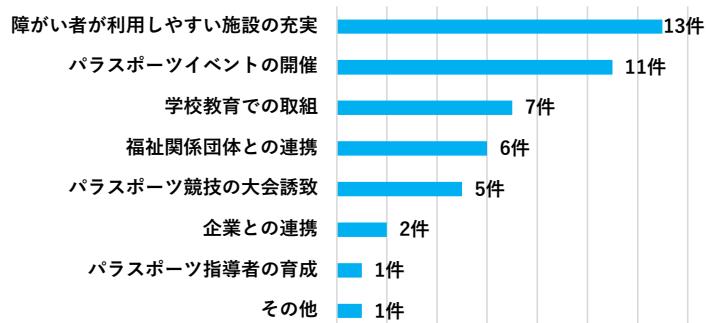
問17 パラスポーツの体験



問18 体験したパラスポーツ種目



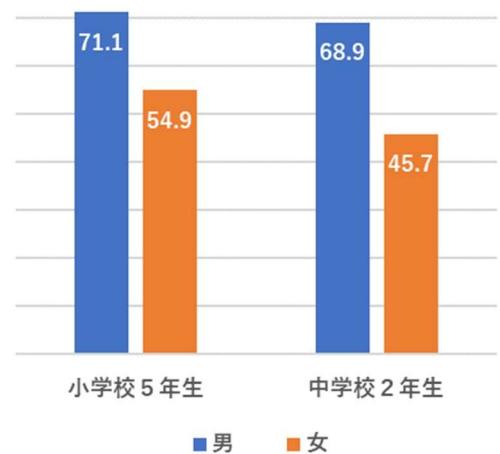
問19 パラスポーツの振興に必要な取組



中学校2年生		運動やスポーツをすることが好き	運動やスポーツが大切	中学卒業後、自主的に運動する時間を持ちたい	運動部や地域のスポーツクラブに所属している (複数回答可)	運動部や地域のスポーツクラブ以外の1週間の総運動時間が60分未満
全国	男	65.5	68.2	87.8	96.3	9.2
	女	43.2	49.3	76.2	69.5	21.4
全道	男	69.0	70.8	87.6	84.5	12.4
	女	44.1	50.5	76.0	59.2	25.8
苫小牧	男	68.9	66.6	87.6	76.4	12.0
	女	45.7	52.7	77.7	53.8	24.8

中学校2年生		朝食を毎日、食べる	1日の睡眠時間が7時間以上	平日に学習以外で画面を見ている時間が2時間以上 (スクリーンタイム)	体力テストの結果や体力・運動能力向上のために目標を立てている
全国	男	81.6	72.5	76.6	74.0
	女	74.4	62.0	75.3	67.6
全道	男	77.3	72.4	81.6	73.4
	女	67.0	63.9	80.9	65.9
苫小牧	男	77.9	70.4	80.3	73.0
	女	67.7	60.1	83.5	68.4

運動やスポーツを做的事情が好きな児童・生徒の割合							
小学校5年生		男	71.1	小学校 平均	63	60.15	
		女	54.9				
中学校2年生		男	68.9	中学校 平均	57.3		
		女	45.7				



## 7 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（抜粋）

### (1) 調査学校数

苦小牧市	小学校（第5学年）			中学校（第2学年）		
	児童数		学校数	生徒数		学校数
男女別	男子	女子	23 (前期課程1校)	男子	女子	15 (後期課程1校)
児童生徒数	743	667		645	621	
計	1,410			1,266		

### (2) 児童・生徒質問紙調査 ※単位は%

小学校5年生		運動やスポーツをすることが好き	運動やスポーツが大切	中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動する時間をもちたい	体育授業以外における1週間の総運動時間が60分未満	朝食を毎日、食べる
全国	男	73.0	71.6	89.3	9.2	81.3
	女	54.8	59.0	84.3	16.0	79.5
全道	男	74.0	75.4	90.2	10.2	74.2
	女	57.7	65.7	85.8	16.4	71.0
苦小牧	男	71.1	73.5	88.9	12.2	74.1
	女	54.9	62.4	86.8	13.4	67.5

小学校5年生		1日の睡眠時間が8時間以上	平日に学習以外で画面を見ている時間が2時間以上（スクリーンタイム）	地域のスポーツクラブに入っている	体力テストの結果や体力・運動能力向上のために目標を立てている
全国	男	69.4	64.8	66.7	79.1
	女	71.7	58.4	50.9	75.9
全道	男	71.3	71.7	61.0	80.3
	女	72.6	67.0	47.0	77.1
苦小牧	男	71.3	70.4	54.8	81.2
	女	71.6	67.6	42.9	81.4

## 8 苫小牧市スポーツ推進審議会条例

平成 26 年 9 月 19 日

### (設置)

第1条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、苫小牧市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

### (組織)

第2条 審議会は、委員 12 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) スポーツに関し学識経験のある者
- (2) スポーツに関する事業に従事する者
- (3) その他市長が適当と認める者

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

### (会長及び副会長)

第3条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第4条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 審議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の会議の議長は、会長が行う。

4 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (関係者の出席等)

第5条 審議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

### (委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

### 附 則

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 苫小牧市特別職の職員の給与に関する条例（昭和 29 年条例第 9 号）の一部を次のように改正する。

第1条第 4 号中「及び中小企業振興審議会」を「、中小企業振興審議会及びスポーツ推進審議会」に改め、「専門委員」の次に「並びにスポーツ推進委員」を加え、同条第 5 号中「及びスポーツ推進委員」を削る

## 9 苫小牧市スポーツ推進審議会委員名簿

【令和8年3月現在】 任期：令和7年4月1日 から 令和9年3月31日 まで

役 職	氏 名	所 属・役 職
会 長	本間 貞樹	公益財団法人苫小牧市スポーツ協会 専務理事
副会長	中村 誠宏	苫小牧身体障がい者福祉連合会 (日本軽金属株式会社 苫小牧製造所)
委 員	荒井 智子	公募委員
委 員	石田 憲一	苫小牧市中学校長会 経営部 部長 (苫小牧市立光洋中学校 校長)
委 員	伊藤 陽子	公募委員
委 員	金山 良平	株式会社オカモト 地域共創・フィットネス事業本部 アシスタントシニアマネージャー
委 員	鈴木 克憲	一般社団法人苫小牧市医師会 理事
委 員	中村 峰子	苫小牧市スポーツ推進委員会 女性委員長
委 員	西田 龍史	一般社団法人総合型地域スポーツクラブ とまこまい・あそび塾プランニングディレクター
委 員	藤岡 照宏	苫小牧アイスホッケー連盟 理事長
委 員	米山 知奈	北海道文教大学 人間科学部健康栄養学科助教
委 員	林崎 竹亜	一般社団法人苫小牧観光協会 常務理事

## 10 苫小牧市スポーツ推進審議会等審議経過

---

【第2期苫小牧市スポーツ推進計画策定までの流れ】

日付	会議名など	会議の議題や取組内容
R7.7.14	第1回審議会	(1) 苫小牧市スポーツ推進審議会の概要について (2) 苫小牧市スポーツ推進計画について (3) 苫小牧市スポーツ施設整備計画について (4) 苫小牧市スポーツ推進計画施策事業について (5) 次期計画策定に向けたアンケート調査の結果について
R7.10.22	第2回審議会	第2期スポーツ推進計画の素案について
R7.12.10	12月定例会	総務委員会で素案（概要版）を報告
R7.12.15～ R8.1.13	パブリック コメント	
R8.1.	教育委員会 定例会	
R8.2	第3回審議会	
R8.2	R8.2月議会	

## 11 用語解説

---

※本文中ににおいて「〇〇〇〇」と表示された用語について解説します。

### ◆スポンサーシップ

企業や団体がスポーツ、文化、イベントなどに資金や物資を提供し、その見返りとして自社の認知度向上、ブランド価値アップ、顧客との関係構築などのマーケティング・PR効果を得る仕組みのこと。

### ◆デジタルコンテンツ

文章、画像、音楽、動画、ソフトウェア、ゲームなど、あらゆる情報をデジタルデータ(0と1の羅列)として表現・提供されるコンテンツ全般のこと。

### ◆ソーシャルメディア

個人や企業が情報を発信・共有・拡散することによって形成される、インターネットを通じた情報交流サービスの総称。

### ◆ジェンダー平等

一人ひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができること。

### ◆SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

「Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」の略で、インターネット上でユーザー同士がプロフィールを作成し、文章・写真・動画などを投稿・共有しながら交流できるwebサイト上の会員制サービスのこと。

### ◆Instagram（インスタグラム、インスタ）

写真や動画などをメインに投稿できるSNSサービスの1つ。

### ◆スポーツツーリズム

スポーツの「観る」「する」「支える」といった体験を目的とした旅行全般のこと。

### ◆アイデンティティ

「自分は何者か」という自己認識や、他者・社会との関わりの中で確立される「自分らしさ」、あるいは「同一性」を指す用語。

### ◆DX（デジタルトランスフォーメーション）

コンピュータで扱える数字（Digital）と変容（Transformation）の意味。デジタル技術を活用することで、人々の生活やビジネスをより良いものへと変革させること。Transは「交差」の意味として英語圏で「X」と略していることからDXと略される。



TOMAKOMAI HOKKAIDO

## 第2期苫小牧市スポーツ推進計画

令和8年（2026年）3月発行

発行：苫小牧市

編集：総合政策部 まちづくり推進室 スポーツ都市推進課

電話：0144-34-9601

FAX：0144-34-7717

E-mail：[sports@city.tomakomai.hokkaido.jp](mailto:sports@city.tomakomai.hokkaido.jp)

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号